

令和5事業年度

事業報告書

日本中央競馬会

I 業務の実施状況

1. 令和5事業年度の業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

・開催回数 36回 ・開催日数 288日

(内訳)

競馬場	開催回数	開催日数	競馬場	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2回	14日	東京競馬場	5回	45日
函館競馬場	2回	12日	中京競馬場	4回	32日
福島競馬場	3回	20日	京都競馬場	3回	29日
新潟競馬場	4回	26日	阪神競馬場	5回	46日
中山競馬場	5回	42日	小倉競馬場	3回	22日

② 売得金及び開催競馬場入場人員

売得金	3兆2,964億0,963万3,200円
開催競馬場入場人員	462万4,106人

③ 国庫納付金

第1国庫納付金	3,296億4,096万3,320円
第2国庫納付金	284億6,404万8,173円

④ 主な業績項目の数値

項目		数式	本事業年度数値
競馬開催計画 達成率	開催回数	開催実施回数／開催計画回数	100%
	開催日数	開催実施日数／開催計画日数	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	売得金／職員数	1,832,356千円
	対入場人員	開催競馬場入場人員／職員数	2,570人
対売上収益率		剰余金／売得金	1.73%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

登録の種類	〔J R A所属〕			〔その他〕 ※ i ii	
	登録の数	取消の数	本事業年度末数	国際関係	地方関係
馬主の登録	177名	122名	2,795名	1(4)名	24名
馬の登録	5,534頭	5,401頭	9,185頭	2(2)頭	63頭
服色の登録	113件	100件	2,057件	1(4)件	—

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

免許の種類	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iii iv v		
	免許の数	取消の数	本事業年度末数	短期	国際関係	地方関係
調教師の免許	192名	2名	190名	—	2名	61名
騎手の免許	151名	7名	144名	14名	7名	61名

※ i 「免許の数」：3月1日付免許者数

ii 「取消の数」：免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数

iii 「短期」：臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）

iv 「国際関係」：国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）

v 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

(4) 競走馬の育成

日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、育成研究を目的として市場購買馬（令和4年購買の2歳馬74頭及び令和5年購買の1歳馬74頭）の育成を行いました。

また、日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、生産育成研究を目的としてJ R A生産馬（当歳9頭、1歳8頭及び2歳9頭）の育成を行いました。

(5) 騎手の養成・訓練

競馬学校において騎手の養成を行い、6名が卒業しました。令和5事業年度末現在の在校生数は20名となっています。

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を行いました。

そのうち、特別振興資金を使用して、競馬振興事業を実施しました。

合計金額 133億1,354万1,497円

(7) 畜産振興事業

特別振興資金を使用して、畜産振興事業を実施しました。

合計金額 47億6,320万7,359円

(8) 払戻金への上乗せ

特別振興資金を使用して、1号給付金及び2号給付金を払戻金に上乗せしました。

1号給付金 33億4,423万5,010円

2号給付金 42億3,596万6,570円

合計金額 75億8,020万1,580円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競走馬生産振興業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 97億0,000万0,000円

(10) 競馬活性化業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競馬活性化業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 14億3,333万5,000円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

該当ありません。

2. 前事業年度までにおける業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

事業年度	令和2年		令和3年		令和4年	
	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2回	14日	2回	14日	2回	14日
函館競馬場	2回	12日	1回	12日	1回	12日
福島競馬場	3回	20日	2回	12日	3回	20日
新潟競馬場	4回	26日	5回	36日	4回	26日
中山競馬場	5回	43日	5回	42日	5回	42日
東京競馬場	5回	45日	5回	44日	5回	45日
中京競馬場	3回	23日	6回	45日	6回	45日
京都競馬場	4回	37日	0回	0日	0回	0日
阪神競馬場	6回	48日	6回	53日	6回	54日
小倉競馬場	2回	20日	4回	30日	4回	30日
合計	36回	288日	36回	288日	36回	288日

② 売得金及び開催競馬場入場人員

事業年度	売得金	開催競馬場入場人員
令和2年	2兆9,911億8,723万7,800円	99万0,970人
令和3年	3兆1,079億6,007万3,800円	72万2,670人
令和4年	3兆2,736億8,192万8,500円	279万0,937人

③ 国庫納付金

事業年度	第1国庫納付金	第2国庫納付金
令和2年	2,991億1,872万3,780円	307億6,446万8,332円
令和3年	3,107億9,600万7,380円	355億8,042万0,971円
令和4年	3,273億6,819万2,850円	418億9,334万0,638円

④ 主な業績項目の数値

項目		令和2年	令和3年	令和4年
競馬開催計画 達成率	開催回数	100%	100%	100%
	開催日数	100%	100%	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	1,681,386千円	1,747,026千円	1,840,180千円
	対入場人員	557人	406人	1,568人
対売上収益率		2.05%	2.28%	2.56%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

① 馬主の登録

事業年度	〔JRA所属〕		当該事業年度末数	〔その他〕※ i ii	
	登録の数	取消の数		国際関係	地方関係
令和2年	135名	104名	2,599名	1(8)名	31名
令和3年	174名	101名	2,672名	2(2)名	22名
令和4年	174名	106名	2,740名	4(8)名	37名

② 馬の登録

事業年度	〔JRA所属〕		当該事業年度末数	〔その他〕※ i ii	
	登録の数	取消の数		国際関係	地方関係
令和2年	5,330頭	5,222頭	8,911頭	1(1)頭	79頭
令和3年	5,282頭	5,303頭	8,890頭	3(3)頭	54頭
令和4年	5,330頭	5,168頭	9,052頭	5(5)頭	59頭

③ 服色の登録

事業年度	〔JRA所属〕		当該事業年度末数	〔その他〕※ i
	登録の数	取消の数		国際関係
令和2年	134件	108件	2,004件	1(8)件
令和3年	122件	100件	2,026件	2(2)件
令和4年	128件	110件	2,044件	4(8)件

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

① 調教師の免許

事業年度	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iv v	
	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
令和2年	197名	3名	194名	1名	70名
令和3年	193名	1名	192名	2名	47名
令和4年	190名	0名	190名	5名	48名

② 騎手の免許

事業年度	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iii iv v		
	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	短期	国際関係	地方関係
令和2年	140名	5名	135名	7名	0名	49名
令和3年	141名	2名	139名	1名	2名	10名
令和4年	149名	3名	146名	10名	9名	39名

- ※ i 「免許の数」 : 3月1日付免許者数
 ii 「取消の数」 : 免許期間を満了せず、事業年度途中で取り消した者の数
 iii 「短期」 : 臨時試験による短期騎手免許者数(延人数)
 iv 「国際関係」 : 国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数(延人数)
 v 「地方関係」 : 地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数(延人数)

(4) 競走馬の育成

事業年度	育成頭数	(内訳)	当歳馬	1歳馬	2歳馬
			令和2年	177(27)頭	9(9)頭
令和3年	176(27)頭	9(9)頭	83(9)頭	84(9)頭	
令和4年	174(26)頭	8(8)頭	83(9)頭	83(9)頭	

※ ()内は育成したJ R A生産馬の頭数(内数)

(5) 騎手の養成・訓練

事業年度	競馬学校卒業者数	当該事業年度末在校生数
令和2年	4名	25名
令和3年	8名	25名
令和4年	9名	21名

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

- ① 令和2年、令和3年及び令和4年の各事業年度において、上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を実施しました。
- ② 競馬振興事業

事業年度	金額
令和2年	117億1,689万5,378円
令和3年	109億8,416万6,688円
令和4年	113億8,196万9,475円

(7) 畜産振興事業

事業年度	金額
令和2年	39億6,131万6,004円
令和3年	39億6,408万4,897円
令和4年	42億4,538万0,993円

(8) 払戻金への上乗せ

事業年度	金額	1号給付金	2号給付金
令和2年	66億2,186万1,060円	32億3,943万3,090円	33億8,242万7,970円
令和3年	66億8,632万9,170円	33億6,238万9,360円	33億2,393万9,810円
令和4年	66億9,429万9,720円	32億1,622万5,820円	34億7,807万3,900円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

事業年度	金額
令和2年	23億1,600万0,000円
令和3年	13億8,600万0,000円
令和4年	23億1,600万0,000円

(10) 競馬活性化業務への交付

事業年度	金額
令和2年	27億3,986万3,495円
令和3年	12億9,126万4,274円
令和4年	16億3,650万9,907円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達状況

令和2年、令和3年及び令和4年の各事業年度において、該当ありません。

Ⅱ 日本中央競馬会の概要

1. 業務の内容

日本中央競馬会は、競馬の健全な発展を図って馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的とし、その目的を達成するため次の業務を行うことが法定されています。

(1) 業務内容

- ① 中央競馬の実施
- ② 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録
- ③ 調教師及び騎手の免許
- ④ 競走馬の育成
- ⑤ 騎手の養成・訓練
- ⑥ 競馬法第 21 条の規定により委託を受ける競馬の実施に関する事務
- ⑦ その他競馬の健全な発展を図るため必要な業務
- ⑧ 畜産振興事業等について助成することを業務とする法人に対し、当該助成に必要な資金の全部又は一部を交付する業務
- ⑨ 競馬法附則第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に規定する当該勝馬投票の的中者に対し、給付金を交付する業務
- ⑩ 地方競馬全国協会が行う競走馬生産振興業務に対し、交付金を交付する業務
- ⑪ 地方競馬全国協会が行う競馬活性化業務に対し、交付金を交付する業務（令和 9 事業年度までの間）

(2) 根拠規定

日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）第 19 条

競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）第 23 条の 44 第 3 項並びに附則第 5 条及び第 8 条

2. 各事務所の所在地

名 称	郵便番号	所 在 地	電話番号
本部	105-0003	東京都港区西新橋 1 丁目 1 番 1 号	03-3591-5251
馬事公苑	158-0098	東京都世田谷区上用賀 2 丁目 1 番 1 号	03-3429-5101
競馬学校	270-1431	千葉県白井市根 835 番地 1	047-491-0333
競走馬総合研究所	329-0412	栃木県下野市柴 1400 番 4 号	0285-44-0090
競走馬 リハビリテーションセンター	972-8325	福島県いわき市常磐白鳥町上ノ原 71 番	0246-43-3185
日高育成牧場	057-0171	北海道浦河郡浦河町字西舎 535 番地の 13	0146-28-1211
宮崎育成牧場	880-0036	宮崎県宮崎市花ヶ島町大原 2347 番地	0985-25-3448
栗東 トレーニングセンター	520-3085	滋賀県栗東市御園 1028 番地	077-558-0101
美浦 トレーニングセンター	300-0493	茨城県稲敷郡美浦村大字美駒 2500 番地 の 2	029-885-2111
札幌競馬場	060-0016	北海道札幌市中央区北 16 条西 16 丁目 1 番 1 号	011-726-0461
函館競馬場	042-8585	北海道函館市駒場町 12 番 2 号	0138-53-1021
福島競馬場	960-8114	福島県福島市松浪町 9 番 23 号	024-534-2121
新潟競馬場	950-3301	新潟県新潟市北区笹山 3490 番地	025-259-3141
中山競馬場	273-0037	千葉県船橋市古作 1 丁目 1 番 1 号	047-334-2222
東京競馬場	183-0024	東京都府中市日吉町 1 番地の 1	042-363-3141
中京競馬場	470-1132	愛知県豊明市間米町敷田 1225 番地	052-623-2001
京都競馬場	612-8265	京都府京都市伏見区葎島渡場島町 32 番地	075-631-3131
阪神競馬場	665-0053	兵庫県宝塚市駒の町 1 番 1 号	0798-51-7151
小倉競馬場	802-0841	福岡県北九州市小倉南区北方 4 丁目 5 番 1 号	093-962-3236

3. 資本金の総額及び政府の出資額並びにこれらの増減

資本金の総額	政府の出資額	前期末比増減
4,924,129,000 円	全額政府出資	増減なし

4. 役員の定数並びに各役員の氏名、役職、任期及び経歴等 (令和5事業年度末現在)

(1) 役員の定数

理事長1人、副理事長1人、理事10人以内及び監事3人以内

(2) 各役員の氏名、役職、任期、経歴

役職	氏名	任期	経歴
理事長	吉田 正義	2023年9月12日～2026年9月11日	日本中央競馬会 副理事長
副理事長	山口 英彰	2023年9月12日～2026年2月28日	日本中央競馬会 常務理事
常務理事	臼田 雅弘	2023年3月1日～2025年2月28日	日本中央競馬会理事
理事	植木 聡	2023年3月1日～2025年2月28日	日本中央競馬会 総合企画部長
理事	清水 靖博	2023年3月1日～2025年2月28日	日本中央競馬会 プロモーション部長
理事	橋本 次郎	2023年10月1日～2025年9月30日	日本中央競馬会総括監
理事	佐野 健吉	2023年3月1日～2025年2月28日	日本中央競馬会 競走部長
理事	菊田 淳	2023年3月1日～2025年2月28日	日本中央競馬会 審判部長
理事	飯田 久隆	2023年3月1日～2025年2月28日	日本中央競馬会 経理部審議役
理事	小林 哲也	2023年3月1日～2025年2月28日	日本中央競馬会 美浦トレーニング・センター場長
理事	吉成 公伸	2023年9月12日～2025年2月28日	日本中央競馬会 競走部長
監事	高嶋 民治	2023年10月1日～2025年9月30日	日本中央競馬会 総合企画部長
監事 (非常勤)	田中佐知子	2022年9月16日～2024年9月15日	弁護士
監事 (非常勤)	小谷実可子	2022年9月16日～2024年9月15日	NPO法人 日本オリンピックズ協会理事

(3) 役員の異動

- ① 2月28日付けで本川一善副理事長、木村一人常務理事及び新屋勇人理事が退任し、3月1日付けで吉田正義前常務理事が副理事長に、臼田雅弘前理事及び山口英彰前参与が常務理事に、飯田久隆前経理部審議役及び小林哲也前美浦トレーニング・センター場長が理事に任命されました。
- ② 9月11日付けで後藤正幸理事長が退任し、9月12日付けで吉田正義前副理事長が理事長に、山口英彰前常務理事が副理事長に、吉成公伸前競走部長が理事に任命されました。
- ③ 9月30日付けで勝見浩二監事が退任し、10月1日付けで高嶋民治前総合企画部長が監事に任命されました。

5. 職員の定数及びその増減（令和5事業年度末現在）

職員の定数	前期末比増減
1,799人	20人増

6. 日本中央競馬会の沿革

昭和29年	○ 日本中央競馬会の設立（9月16日） 昭和23年に当時の「日本競馬会」の業務を継承したいわゆる「国営競馬」を引き継いで、競馬法（昭和23年7月13日法律第158号）により競馬を行う特殊法人として、日本中央競馬会法（昭和29年7月1日法律第205号）により設立
平成3年	○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 ① 馬主の登録制度並びに調教師及び騎手の免許制度の改善 ② 馬主登録等がより公正に行われるための審査会の設置 ③ 日本中央競馬会の剰余金を有効に活用するための特別振興資金及び特別給付資金の新設 ④ 競馬振興事業及び畜産振興事業の新設 ⑤ 単勝式及び複勝式の勝馬投票の的中者に対し、特別給付金を交付する特別給付業務の新設
平成17年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 ① 中央競馬の実施に関する事務を政令で定めるところにより都道府県等に委託することができることを新たに規定 ② 勝馬投票券の購入等の制限の対象から成年である学生生徒が除外 ③ 単勝式及び複勝式の払戻率を改正（特別給付業務は平成16年末までの分をもって終了） ○ 「行政改革の重要方針」の閣議決定（12月24日） ① 現行の組織形態（特殊法人）を継続 ② 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和 ③ 競争入札への移行の促進、子会社等の統合、外部監査の導入等を図ること
平成19年	○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 ① 経営委員会の設置 ② 農林水産大臣の関与及び規制の緩和（規約についての関与の緩和、役員任免等に関して大臣認可を不要とすること等） ③ 1号給付金及び2号給付金を交付する業務の新設
平成24年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 払戻金の算出方法の見直し
平成27年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 海外競馬の競走についての勝馬投票の実施
令和4年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 競馬に対する国民の信頼を確保するための措置の充実

7. 根拠法 日本中央競馬会法

8. 主務大臣 農林水産大臣

9. 経営委員会の概要（令和5事業年度末現在）

経営委員会は、日本中央競馬会法第8条の2の規定により設置され、農林水産大臣が任命する委員6人及び理事長の7人により構成されています。

(1) 各委員の氏名、任期及び職名等

氏名	任期	職名等
片山 雅文	2022年9月1日～2025年8月31日	(株)産経新聞社 コンプライアンスアドバイザー
小堀 秀毅 (委員長代理)	2023年7月1日～2025年8月31日	旭化成(株) 取締役会長
酒井 順子	2022年9月1日～2025年8月31日	エッセイスト
田島 優子	2022年9月1日～2025年8月31日	弁護士
眞鍋 昇	2022年9月1日～2025年8月31日	大阪国際大学 学長補佐
山西健一郎 (委員長)	2022年9月1日～2025年8月31日	三菱電機(株) 元社長、会長

(2) 経営委員会の開催概要

① 第1回経営委員会（1月19日）

- ・ 2023年度組織改正（案）の議決
- ・ 日本中央競馬会職員給与規程等の一部改正（案）の議決 ほか

② 第2回経営委員会（2月9日）

- ・ 役員任命（案）についての同意
- ・ 令和5事業年度予算実施計画（案）の議決
- ・ 外向け場外設備の設置申請（案）の議決 ほか

③ 第3回経営委員会（3月15日）

- ・ 令和4事業年度決算（案）の議決
- ・ 日本中央競馬会競馬施行規約の一部改正（案）の議決
- ・ 日本中央競馬会が定める7月1日、8月27日及び9月18日の払戻金に係る率（案）の議決 ほか

- ④ 第4回経営委員会（4月19日）
 - ・ 令和4事業年度経営目標の達成状況に係る自己評価の報告 ほか
- ⑤ 第5回経営委員会（5月17日）
 - ・ 日本中央競馬会職員給与規程等の一部改正（案）の議決
 - ・ 令和4事業年度経営目標の達成状況の評価（案）の議決 ほか
- ⑥ 第6回経営委員会（6月22日）
 - ・ 阪神競馬場スタンドリフレッシュ工事の実施の報告 ほか
- ⑦ 第7回経営委員会（8月8日）
 - ・ 委員長の選任
 - ・ 委員長代理の選任 ほか
- ⑧ 第8回経営委員会（8月31日）
 - ・ JRAのアプリ展開の報告 ほか
- ⑨ 第9回経営委員会（9月8日） ※書面表決
 - ・ 役員任命（案）についての同意
- ⑩ 第10回経営委員会（9月21日） ※書面表決
 - ・ 役員任命（案）についての同意
- ⑪ 第11回経営委員会（10月12日）
 - ・ 2024事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）の議決 ほか
- ⑫ 第12回経営委員会（11月15日）
 - ・ 2024事業年度経営目標（案）の決定
 - ・ 2024事業年度事業計画（案）の議決
 - ・ 2024事業年度収支予算（案）の議決
 - ・ 競馬法第8条第1項の規定により日本中央競馬会が定める率（案）の議決 ほか
- ⑬ 第13回経営委員会（12月14日）
 - ・ 経営委員会申合せ事項の一部改正（案）の議決 ほか

（3）委員の異動

- ① 6月30日付けで小林栄三委員が退任し、7月1日付けで小堀秀毅氏が新たに委員に任命されました。

10. 運営審議会の概要（令和5事業年度末現在）

日本中央競馬会法第16条の規定により、日本中央競馬会の業務の執行に関する重要事項を調査審議するため、理事長が農林水産大臣の認可を受けて任命する者により構成される運営審議会が設置されています。

（1）各委員の氏名、任期及び職名等

氏名	任期	職名等
大西 洋	2023年9月16日～2025年9月15日	日本空港ビルデング(株) 取締役副社長
佐藤 藍子	2023年9月16日～2025年9月15日	女優
鈴木 淑子	2023年9月16日～2025年9月15日	競馬ジャーナリスト
武 豊	2023年9月16日～2025年9月15日	日本騎手クラブ 会長
土川 健之	2023年9月16日～2025年9月15日	元 日本中央競馬会 理事長
手塚 貴久	2023年9月16日～2025年9月15日	(一社)日本調教師会 会長
西川 賢	2023年9月16日～2025年9月15日	日本馬主協会連合会 会長
蓮見 恭子	2023年9月16日～2025年9月15日	小説家
古川 雅且	2023年9月16日～2025年9月15日	日高軽種馬農業協同組合 代表理事組合長
宮下真理子	2023年9月16日～2025年9月15日	日本画家

（2）運営審議会の開催概要

① 第1回運営審議会（3月9日）

- ・ 令和4事業年度決算（案）について
- ・ 日本中央競馬会競馬施行規約及び日本中央競馬会競馬施行規程の一部改正について（案）

② 第2回運営審議会（10月10日） ※書面表決

- ・ 2024事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）について

③ 第3回運営審議会（11月9日）

- ・ 2024事業年度事業計画（案）について
- ・ 2024事業年度収支予算（案）について

(3) 委員の異動

9月15日付で川崎麻児委員が退任し、9月16日付で宮下真理子氏が新たに委員に任命されました。

1.1. 公正審査会議の概要（令和5事業年度末現在）

日本中央競馬会法第20条の規定に基づき、馬主の登録・抹消、調教師及び騎手の免許・取消し、行政不服審査法による審査請求に対する裁決などについて意見を聴くため、理事長が学識経験者から公正審査委員を任命し、委員による公正審査会議を開催しました。

(1) 各委員の氏名、任期及び経歴

氏名	任期	経歴
石木 俊治	2023年9月7日～2025年9月6日	元 内閣法制局第四部長
石原 葵	2023年9月7日～2025年9月6日	元 日本中央競馬会副理事長
井上 美昭	2023年9月7日～2025年9月6日	元 関東管区警察局長
酒井 邦彦	2023年9月7日～2025年9月6日	弁護士
酒井 啓子	2023年9月7日～2025年9月6日	千葉大学グローバル 関係融合研究センター長
福沢 恵子	2023年9月7日～2025年9月6日	(公財)日本女性学習財団評議員
堀越 礼子	2023年9月7日～2025年9月6日	(株)朝日新聞社取締役

(2) 公正審査会議の開催概要

- ① 第1回公正審査会議（1月13日）
 - ・ 公正審査会議運営規則の改正について
- ② 第2回公正審査会議（2月3日）
 - ・ 令和5年度調教師及び騎手免許について
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録2件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加1件）
- ③ 第3回公正審査会議（3月10日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定1件）

- ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の限定的代表者変更 3 件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主の馬主登録取消の猶予 1 件）
- ④ 書面審査（3月29日～4月6日）
- ・ 馬主登録について（法人馬主の限定的代表者変更 1 件）
- ⑤ 第4回公正審査会議（4月13日）
- ・ 2023年第1回馬主登録審査に係る馬主登録について（37件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更 1 件）
- ⑥ 第5回公正審査会議（5月12日）
- ・ 馬主登録について（個人馬主の馬主登録取消の猶予 1 件）
- ⑦ 第6回公正審査会議（6月2日）
- ・ 馬主登録について（個人馬主の馬主登録取消の猶予 1 件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加 1 件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更 1 件）
- ⑧ 第7回公正審査会議（7月6日）
- ・ 2023年第2回馬主登録審査に係る馬主の登録について（51件）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定 2 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主による個人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の限定的代表者の限定解除 1 件）
- ⑨ 第8回公正審査会議（9月8日）
- ・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 5 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主による個人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
- ⑩ 第9回公正審査会議（10月6日）
- ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 6 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主による個人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
- ⑪ 第10回公正審査会議（11月10日）
- ・ 2023年第3回馬主登録審査に係る馬主の登録について（68件）

- ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録1件）
- ・ 馬主登録について（法人馬主による法人馬主登録1件）
- ・ 馬主登録について（法人馬主による個人馬主登録1件）
- ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更1件）
- ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加1件）
- ・ 馬主登録について（個人馬主の馬主登録取消の猶予1件）

⑫ 第 11 回公正審査会議（12 月 6 日）

- ・ 2024 年度調教師免許（新規）について
- ・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
- ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 2 件）
- ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）

（3）委員の異動

なし

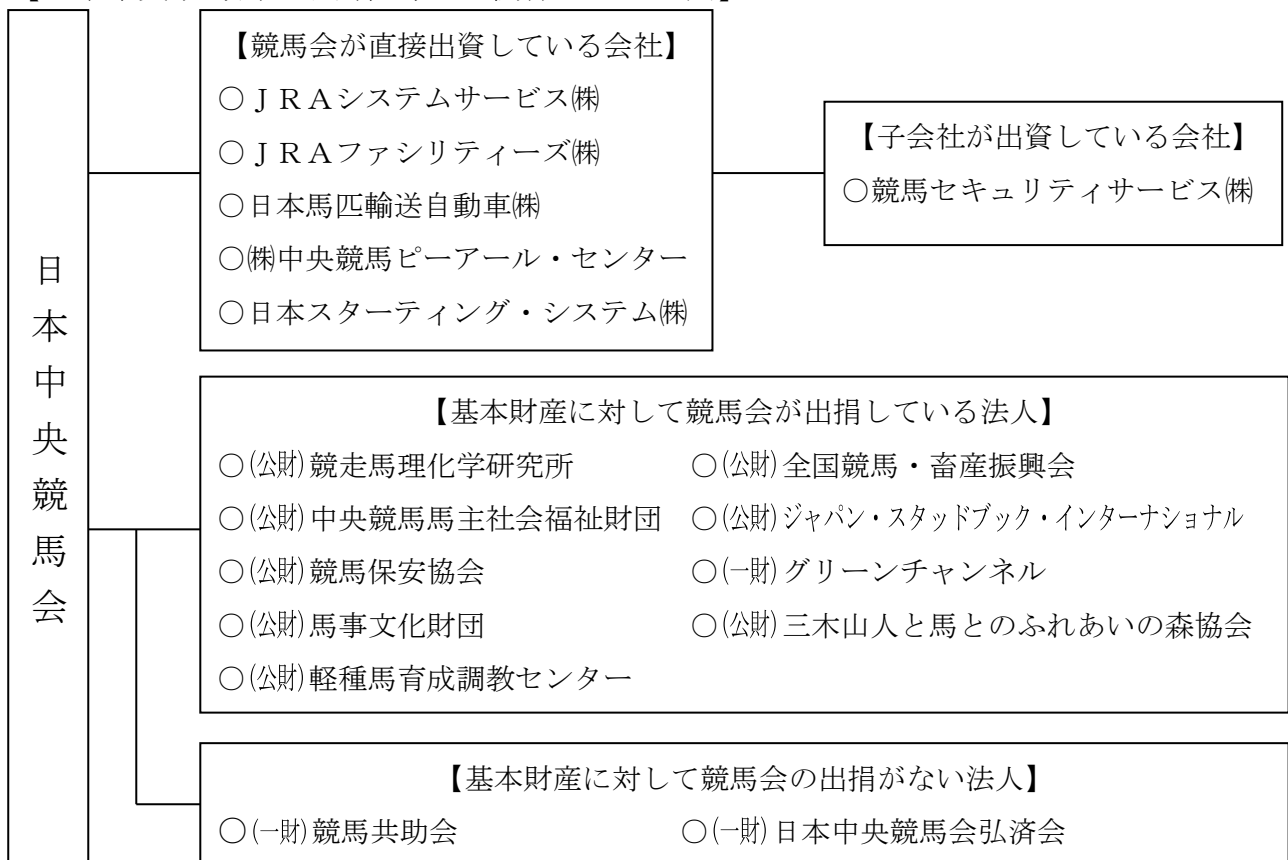
Ⅲ 子会社等に関する事項（令和5事業年度末現在）

1. 子会社等の状況

日本中央競馬会法施行規則（昭和29年農林省令第56号）第10条第3号に定める子会社等の状況は以下のとおりです。

- (1) 子会社：JRAシステムサービス(株)、JRAファシリティーズ(株)、日本馬匹輸送自動車(株)、(株)中央競馬ピーアール・センター、日本スターティング・システム(株)、競馬セキュリティサービス(株)
- (2) 関連会社：なし
- (3) 関連一般社団法人等：(公財)競走馬理化学研究所、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団、(公財)競馬保安協会、(公財)馬事文化財団、(公財)軽種馬育成調教センター、(公財)全国競馬・畜産振興会、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(一財)グリーンチャンネル、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会、(一財)競馬共助会、(一財)日本中央競馬会弘済会

【日本中央競馬会と子会社等との関係を示した図】



2. 子会社の名称、住所、資本金、事業内容、役員数、代表者の氏名、従業員数、日本中央競馬会の所有する議決権の議決権の総数に対する割合及び日本中央競馬会との関係

子会社の名称・住所 代表者の氏名 資本金 競馬会の議決権所有割合	主な事業内容	売上高 当期純利益 利益剰余金 〔令和4年 決算額〕 (百万円)	役員数 (うち常勤) 従業員数 (人)	競馬会との関係 ア 売上高中の競馬会との取引額 (令和4年実績) イ 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
JRAシステムサービス㈱ 【平成19年10月設立】 東京都江東区永代1-14-5 代表取締役社長 木村 一人 500,000千円 54.5% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・トータリゼータシステム及び各種情報処理システム並びにそれらのシステムに関連する機器の運用及び保守整備 ・競馬に関する情報の提供 ・各種機器・車両及び競馬用諸設備の売買及び賃貸並びにそれらに付帯する物品の売買及び賃貸 	19,394 414 7,215	14 (11) 556	ア 16,193百万円 イ ・トータリゼータシステム等の運用保守管理業務 ・トータリゼータシステム等のソフトウェア開発業務 ・競馬に関する情報提供システムの運用業務 ウ なし
JRAファシリティーズ㈱ 【平成19年10月設立】 東京都中央区八丁堀3-19-9 代表取締役社長 木所 康夫 300,000千円 94.9% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・建物、馬場、造園及び各種設備の保守管理並びに関連資材の販売 ・施設等の清掃、環境衛生、防疫、廃棄物の管理及び警備 ・出走馬一覧表等各種刊行物の作製及び版下作成 ・飼糧、敷料及び添加物等の輸入並びに販売 ・損害保険代理業及び生命保険の募集等 	23,526 528 11,874	14 (11) 499	ア 18,639百万円 イ ・競馬場等の建物、設備、馬場等の保守管理業務 ・競馬場等の清掃管理業務及び清掃業務 ・レーシングプログラムの作製 ・建物、設備、馬場等の設計管理業務 ウ なし
日本馬匹輸送自動車㈱ 【昭和22年8月設立】 東京都港区新橋6-20-11 代表取締役社長 谷崎 潤 36,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・競走馬の輸送 	2,061 34 1,637	5 (3) 91	ア 2,032百万円 イ ・競走馬輸送業務 ウ なし
㈱中央競馬ピーアール・センター 【昭和53年10月設立】 東京都港区新橋4-5-4 代表取締役社長 新屋 勇人 20,000千円 64.3% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・競馬及び馬文化等に関する図書及び印刷物の企画、編集、制作、出版及び販売 ・競馬及び馬文化等に関する映像業務、音声業務並びにその機器の運用、開発、販売、賃貸及び保守整備 ・競馬及び馬文化等に関する各種情報の収集及び提供 	6,801 304 2,421	7 (5) 111	ア 3,417百万円 イ ・映像伝送ネットワークシステム運用保守管理業務 ・競馬実況中継放送代理業務 ウ なし
日本スターティング・システム㈱ 【昭和40年9月設立】 東京都港区新橋6-14-3 代表取締役社長 横田 貞夫 10,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・発馬機及びその周辺機器等の運用並びに保守整備 ・発馬機及びその周辺機器の賃貸並びに販売 ・競走馬の発走に関する補助 	1,679 178 1,484	7 (4) 69	ア 1,667百万円 イ ・発馬機作業及び機材輸送業務 ウ なし
競馬セキュリティサービス㈱ 【平成4年11月設立】 東京都港区西新橋3-2-1 代表取締役社長 小日向 照夫 100,000千円 0% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合警備保障業務 ・労働者派遣業務 	4,041 110 2,448	4 (2) 117	ア 3,502百万円 イ ・競馬場等の常駐警備業務 ・競馬開催に係る警備業務、案内業務及び競馬開催補助業務 ウ なし

3. 関連一般社団法人等の名称、住所、基本財産、事業内容、役員数、代表者の氏名、職員数及び日本中央競馬会との関係

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 〔令和4年〕 決算額	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (令和4年実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)競走馬理化学研究所 【昭和40年8月設立】 栃木県宇都宮市砥上町321-4 理事長 安斉 了 1,030,054千円	<ul style="list-style-type: none"> 競走馬に施用される薬品及び薬剤の検査及び研究 騎手に施用され、又は騎手を使用する薬品及び薬剤の検査及び研究 馬の親子判定及び個体識別に係る検査及び研究 農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等の検査及び研究 	(百万円) 1,988	(人) 6 (3) 63	ア 2,164百万円 イ 「日本中央競馬会競馬施行規約」に定める競走馬に係る薬物検出機関 <ul style="list-style-type: none"> 競走馬薬物検査業務 薬物検査法の開発に関する委託研究業務 ウ なし
(公財)中央競馬馬主社会福祉財団 【昭和44年10月設立】 東京都港区虎ノ門1-2-10 理事長 畑山 光伸 5,515,361千円	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉を目的とする事業に対する助成 社会福祉事業関係者の研修事業に対する助成 中央競馬関係者の福利厚生の上向のための事業 	658	10 (1) 6	ア なし イ 競馬会が馬主に交付した競馬賞金の一部を使用してその事業を実施 ウ 理事(非常勤) 吉田 正義(競馬会理事長) 理事(非常勤) 白田 雅弘(競馬会常務理事)
(公財)競馬保安協会 【昭和46年5月設立】 東京都港区新橋4-5-4 理事長 倉田 潤 10,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬の公正確保のために必要な調査並びに情報及び資料の収集 競馬の公正確保のために必要な研究 	1,616	5 (5) 145	ア 1,457百万円 イ 競馬の公正確保に必要な調査等を実施 ウ なし
(公財)馬事文化財団 【昭和51年4月設立】 神奈川県横浜市中区根岸台1-3 理事長 福田 正二 1,870,805千円	<ul style="list-style-type: none"> 馬に関する文献、標本、写真、フィルム等の博物資料(以下「馬事博物資料」)の収集、保管及び展示 馬事博物資料に関する印刷物の編集及び刊行 根岸競馬記念公苑の馬の博物館その他施設の管理運営 	706	7 (2) 24	ア 320百万円 イ 根岸競馬記念公苑「馬の博物館」、東京競馬場「JRA競馬博物館」及び「Gate J.」の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)軽種馬育成調教センター 【平成3年3月設立】 北海道浦河郡浦河町字西舎528 理事長 草野 広実 1,000,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 軽種馬の育成調教技術の改善・普及 育成調教技術者の養成 共同利用に供する育成調教施設の運営・管理 	834	8 (2) 41	ア 504百万円 イ 日高育成牧場の日高育成総合施設軽種馬育成調教場の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)全国競馬・畜産振興会 【平成3年10月設立】 東京都港区新橋4-5-4 会長 中村 嘉宏 1,000,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬の健全な発展を図るための事業に対する助成 畜産の振興に資するための事業等に対する助成 	196	7 (2) 11	ア 138百万円 イ 競馬の健全な発展を図るための事業並びに畜産振興事業等に対する助成等を実施 ウ なし

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (令和4年 決算額)	役員数 (うち常勤) 職員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (令和4年実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)ジャパン・スタッドブック・ インターナショナル 【平成22年12月設立】 東京都港区新橋4-5-4 理事長 福井 紳弥 1,040,830千円	<ul style="list-style-type: none"> ・海外における競馬に関する情報の収集及び提供並びに我が国の競馬に関する情報の海外への提供 ・競馬の施行、競走馬の育成に関する海外の競馬関係者との技術の交流 ・軽種馬の登録及び登録証明書の発行 ・軽種馬の登録書その他関係図書の刊行 	(百万円) 874	(人) 6 (3) 36	ア 474百万円 イ 競馬会が必要とする海外における競馬に関する情報の収集・提供及び競馬会の行う馬の登録の基礎となる軽種馬の血統登録等を実施 ウ 監事(非常勤) 佐野 健吉(競馬会理事)
(一財)グリーンチャンネル 【平成5年9月設立】 東京都江東区永代1-14-5 理事長 勝見 浩二 1,000,000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・競馬、馬事文化及び農林水産業等に関する放送、供給及び配信業務 ・競馬、馬事文化及び農林水産業等に関する番組の制作及びその支援 	5,016	8 (4) 26	ア 678百万円 イ 中央競馬等の映像情報に関する番組制作、放送等を実施 ウ なし
(公財)三木山人と馬とのふれあいの 森協会 【平成6年6月設立】 兵庫県三木市別所町高木 三木ホースランドパーク 理事長 伊東 茂治 200,000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・野外、体験活動等による交流事業の実施 ・馬事に関する普及啓発 ・乗馬施設等馬事に関する施設の整備及び維持管理 	513	8 (1) 20	ア 217百万円 イ 兵庫県三木市における乗馬施設等馬事に関する施設の管理運営等を実施 ウ なし
(一財)競馬共助会 【昭和23年9月設立】 東京都府中市日吉町1-1 会長 吉崎 一郎 1,500,000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・厩舎関係者等に対する福利厚生に関する事業 ・診療所及び厚生施設の運営 ・競馬愛好者の利便に資するための施設の管理・運営 	2,364	7 (3) 82	ア 968百万円 イ 中央競馬厩舎関係者の福利厚生団体 ウ 理事(非常勤) 佐野 健吉(競馬会理事)
(一財)日本中央競馬会弘済会 【昭和39年12月設立】 東京都港区西新橋1-1-1 会長 峯島 善弘 1,600,000千円	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産に関する調査研究及び資料の収集 ・職員の福利厚生に関する事業 	169	7 (2) 5	ア 1百万円 イ 競馬会職員の福利厚生団体 ウ なし

IV 日本中央競馬会が対処すべき課題

1. 閣議決定

(1) 「特殊法人の整理合理化について」(平成7年2月24日閣議決定)

地方競馬との交流競走の拡大を図るとともに、通信衛星による競馬映像情報の提供、地方競馬場における中央競馬の勝馬投票券の発売等を進めることにより、ファンサービスの改善と地方競馬への支援に努める。また、勝馬投票券の発売・払戻の自動化等により勝馬投票業務の効率化に努める。

(2) 「特殊法人等整理合理化計画」(平成13年12月19日閣議決定)

管理経費・競走事業費の削減など更なる事業の効率化を図る。その一環として、公正確保と両立させつつ、一般競争入札等の範囲を大幅に拡大するとともに、関係会社等に対する委託費等を削減する。

(3) 「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)

事業

【助成金交付事業】

- 当事業の透明性向上のためにこれまで講じている外部有識者委員会による助成事業の選定・評価、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律の規定の準用等に加え、助成事業の評価結果を全面的に公表する仕組みを導入する。
- 国の畜産関係補助金との役割分担を明確化する。

【中央競馬関係事業】

- 競争性のある契約のうち競馬の公正・中立性の確保上支障のない契約については、そのすべての契約を、平成22年までのできる限り早い時期に競争入札に移行させる。
- 子会社・関係会社の組織・事業の再編・統廃合を実施する。
- 入札結果・経営内容等の情報開示を一層進める。

【その他】

- 外部監査を導入する。

組 織

- 組織運営について、一層の効率化を図るため、次の措置を講ずる。
 - ・ 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和
 - ・ 内部組織として学識経験者等で構成される中立性を有する機関の設置
 - ・ 当該機関による定量的な経営目標の設定及び業績評価の実施
 - ・ 当該経営目標の公表及び当該業績評価の結果の公表
 - ・ 経営不調時における役員解任規定導入

2. 「特殊法人に関する行政評価・監視結果に基づく勧告（日本中央競馬会）」

（平成 14 年 1 月 18 日総務大臣から農林水産大臣へ勧告）

支出の見直しについて

（1）経費の節減等

- ア) 施設整備の抑制
- イ) 施設利用料の適正化
- ウ) 子会社等との契約の見直し
- エ) 窓口業務の自動化に伴う要員縮減の推進
- オ) 競走事業費の支出の抑制

（2）ウインズの新設の抑制と運営の効率化

（3）抽せん馬制度の見直し

3. 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の施行に伴う情報公開への適切な対応（平成 14 年 10 月 1 日法律施行）

4. 「ギャンブル等依存症対策基本法」の施行に伴う適切な対応（令和 2 年 10 月 5 日法律施行）

この事業報告書は、日本中央競馬会法施行規則第 10 条の規定に基づき、記載しています。なお、日本中央競馬会の事業年度は、1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっています。

J R Aの事業活動について

(令和5事業年度)

— J R Aは、毎週走り続けます。 —

(令和5事業年度事業報告書別冊)

はじめに

令和5事業年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類」に移行され、経済社会活動の正常化が進む中、JRAは、「お客様とともに」「夢と感動とともに」「信頼とともに」「社会とともに」「そして未来へ」の5項目で構成する「経営の基本方針」に沿って事業活動を行いました。

その結果、競馬の開催については、4月にグランドオープンを迎えた京都競馬場を含む全国10か所の競馬場において、令和5事業年度の経営目標の基本目標の一つである、「事業運営の根幹となる開催日数288日（36開催）の競馬の着実な実施」を達成することができました。

また、お客様総数は延べ1億9,988万人余（対前年比99.97%）と僅かに前年を下回り、もう一つの基本目標である「魅力ある競馬開催によるお客様総数の拡大 - 対前年比100%超 - 」については惜しくも達成できませんでしたが、引き続き、多くのお客様に競馬にご参加いただいた結果、勝馬投票券の売得金については、3兆2,964億円余（対前年比:100.7%）となり、12年連続で前年を上回りました。

JRAは、こうした令和5事業年度の事業活動の結果を的確にフィードバックし、国際的なスポーツエンターテインメントとしての競馬の魅力をもっと向上させるとともに、お客様の獲得と定着化を図るため、競馬番組の充実と質の高い競走の提供をはじめとした様々な施策を実施してまいります。また、SDGs〔Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）〕や気候変動、馬の福祉といった中央競馬を取り巻く諸課題に積極的に取り組むとともに、DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、事業運営の更なる効率化・安定化を図ってまいります。

また、JRAさらには競馬産業全体が安定的かつ持続的に発展していくためには、競馬の施行が環境や経済等社会全体に与える影響とJRAを取り巻く環境を意識しつつ、競馬の社会的基盤を強化していくことが必要となります。こうしたことから、今後とも、お客様からも社会からも「信頼される存在」であり続けること、JRA及び競馬産業の事業基盤を強化していくこと、中央競馬事業の運営等に必要な原資を安定的に確保していくことに取り組んでまいります。

<目次>

○ 令和5事業年度事業計画に掲げた項目の実施概況

1. 魅力ある競走の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 3
2. 競走馬の資質・能力の向上等への取組み・・・・・・・・ p. 4
3. 競馬の公正確保等の徹底・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 6
4. 競馬への参加促進及び販売促進・・・・・・・・ p. 7
5. ホスピタリティの向上・・・・・・・・ p. 12
6. 馬事の振興及び馬の福祉の充実・・・・・・・・ p. 12
7. 持続的な発展に向けた取組み・・・・・・・・ p. 13

○ 令和5事業年度事業計画に掲げた項目の実施概況

1. 魅力ある競走の提供

(1) 開催計画

1月5日（木）から12月28日（木）の間に、延べ288日（36回）の競馬を全国10か所の競馬場において開催しました。

また、より多くのお客様にご参加いただくため、1月9日（祝・月）、9月18日（祝・月）及び10月9日（祝・月）に競馬を開催しました。

なお、各競馬場の開催回数及び開催日数は以下のとおりです。

競馬場	札幌	函館	福島	新潟	中山
開催回数	2	2	3	4	5
開催日数	14	12	20	26	42

競馬場	東京	中京	京都	阪神	小倉
開催回数	5	4	3	5	3
開催日数	45	32	29	46	22

(2) 重賞競走の改善

① 紫苑ステークスのGⅡ昇格

秋華賞（GⅠ）の前哨戦として近年競走内容が充実している紫苑ステークスをGⅢからGⅡに昇格しました。

② 開催日割の変更に伴う実施場の変更

開催日割の変更に伴い、一部重賞競走の実施場を変更しました。

(3) 国内外の一流馬及び騎手の参加促進

フェブラリーステークスに1頭（カナダ）、ジャパンカップに1頭（フランス）の外国馬が出走しました。

また、8月26日（土）・27日（日）（第2回札幌競馬第5・6日）に、外国騎手6名（アメリカ、イギリス、オーストラリア、フランス、ブラジル、香港）と地方競馬所属騎手1名（高知）を招待して、「ワールドオールスタージョッキーズ」を開催しました。

(4) 国際的な交流の推進

延べ84頭のJRA所属馬がサウジアラビア、アラブ首長国連邦、オーストラリア、香港、アメリカ、韓国、フランスに遠征し、うち9競走で優勝しました。

また、IFHA（国際競馬統括機関連盟）が発表した「2023年度ロンジンベストレースホースランキング」において、イクイノックスがレーティング135で「2023年ロンジンワールドベストレースホース」を受賞したほか、レーティング115以上の288頭のうち、日本調教馬は同馬を含む56頭が掲載されました。さらに、「2023年世界のトップ100GI競走」において、ジャパンカップが「2023年ロンジンワールドベストレース」を受賞したほか、同レースを含む4競走が10位以内にランクインしました。

2. 競走馬の資質・能力の向上等への取組み

(1) 競走馬の生産育成を通じた取組み

JRAが生産した馬（JRAホームブレット）26頭（当歳9頭、1歳8頭及び2歳9頭）及び1歳市場で購入した馬148頭（令和4年購買の2歳馬74頭及び令和5年購買の1歳馬74頭）を、日高・宮崎の育成牧場において育成しました。

また、育成した競走馬（JRA育成馬）を4月に中山競馬場で開催したJRAブリーズアップセール（会場及びオンラインによるハイブリッド方式）及び5月に開催したJRAコンソレーションセール（インターネットオークション方式）に上場し、上場馬全81頭（JRAブリーズアップセール79頭、JRAコンソレーションセール2頭）を売却しました。

(2) 生産育成基盤の強化

強い馬づくりを推進し、競馬の国際交流の進展に対応し得る生産育成基盤の強化を図るため、諸団体が実施する軽種馬生産関連事業への助成等の協力を行いました。

(3) 競走馬の保健衛生対策

競走馬総合研究所等において、スポーツ科学、スポーツ障害、生産育成及び伝染病対応に関する研究を行いました。（別表11）

また、7月に「第51回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」、11月に「第65回競走馬に関する調査研究発表会」を開催し、それらの研究成果の普及に努めました。

(4) 競走馬の事故防止対策

競走時及び調教時における競走馬の事故（骨折等）の発生状況を随時調査・分析するとともに、「競走馬事故防止対策委員会」による実施計画に基づき、厩舎関係者への啓発活動や調教施設及び馬場の保全管理等、事故の減少を目的とした各種対策を講じました。

また、事故防止に資する調査研究として、「骨盤骨折の発生状況と予後に関する調査」及び「浅屈腱炎と腕節構成骨剥離骨折のリハビリテーションに関する調査」を実施しました。

(5) 競走馬の暑熱対策

暑熱対策として、競馬場の厩舎への空調設備の新設などの施設整備を行うとともに、夏季において、引き続き装鞍所集合時間の変更や下見所の周回時間短縮等の取組みを行いました。

また、競走馬の熱中症予防に資する調査研究を実施し、それらの成果を厩舎関係者に普及しました。

(6) 防疫体制の整備

入厩検疫や定期検査、予防接種、衛生作業等の防疫業務を着実に実施するとともに、海外の伝染病の発生状況等の情報を収集・周知することで、適切な防疫体制の整備を行いました。また、適切な飼養管理法を周知することにより、ワクチン接種率や衛生環境の改善を図り、国内の防疫体制を強化しました。

(7) 競走関連施設の充実

美浦トレーニング・センターにおいて、坂路馬場改造及び南Eコース新設工事（令和5年12月竣工）や厩舎改築工事（令和7年7月竣工予定）を実施しました。また、栗東トレーニング・センターにおいて、追馬場新設及び周辺施設整備工事（令和5年8月竣工）や厩舎改築工事（令和6年11月竣工予定）を実施しました。

(8) 馬主活動の促進

各種媒体での馬主活動のPRや馬主登録ガイドの配布、競馬観戦会の実施等により馬主の新規開拓を進めました。また、新規馬主を対象としたオリエンテーションや永年馬主表彰、GI競走出走馬主等への記念品贈呈等を実施するとともに、馬主向けの

情報提供の充実等を図るなど、馬主活動の促進に向けた取組みを行いました。

(9) 厩舎運営の活性化

引き続き、厩舎におけるウォーキングマシン導入の支援を行うなど、厩舎従業員の労働環境の改善や業務の効率化等、厩舎運営の総合的な改善に取り組みました。

(10) 厩舎関係者の養成等

競馬学校の騎手課程において、2月に6名(39期)が卒業し、3月1日付で騎手免許を取得しました。また、厩務員課程において、50名が卒業しました。

また、新規騎手免許取得者や見習騎手に対して、技術及び知識の習得・向上を図るため、各種研修等を実施しました。さらに、JRA及び地方競馬所属の見習騎手による「ヤングジョッキーズシリーズ」を実施しました。

3. 競馬の公正確保等の徹底

(1) 登録・免許業務及び制裁等の厳正な実施

馬主・競走馬・服色の登録及び調教師・騎手に対する免許業務について、法令に従い、公正審査委員の意見を聴いたうえで、厳正に実施しました。

また、競走に関する騎手への制裁として、騎乗停止22件、過怠金598件、戒告526件の制裁を行いました。なお、5月に、開催日における騎手の不適切な通信機器(スマートフォン)の使用事案について、当該騎手6名を30日間の騎乗停止としました。

さらに、競馬の円滑な実施を確保するために必要な制裁等に関する規約及び関連規程の規定整備を行いました。

(2) 競馬に対する信頼の確保に向けた取組み

① 薬物の不正使用事案等の未然防止

薬物の使用について、厩舎関係者への指導・研修を実施するとともに、禁止薬物等の飼料への混入防止のため、販売業者への講習会や薬物検査の受検状況の把握、配合飼料製造工場の査察を行いました。

また、令和6年4月に行われる禁止・規制薬物の指定追加について、関係者への周知を行いました。

② 反社会的勢力排除への取組み

関係機関と連携し、お客様の安全確保及び競馬場・ウインズ等内外の秩序維持に努めました。

③ 自主警備体制の整備

厩舎エリアへの防犯カメラの設置を進めるとともに、通門管理や巡回等を徹底することにより、お客様エリア等の施設内における安全確保や違法行為の防止に努めました。

④ 厩舎関係者のコンプライアンスの徹底

引き続き J R A への情報提供の専用窓口（ホットライン）を設置したほか、厩舎関係者に対して、コンプライアンス研修を実施しました。

(3) 裁決事項の協調等

裁決事項に関する国際協調策の一環として、鞭の連続使用に係る回数制限を 10 回から 5 回へ変更しました。

また、J R A ホームページで裁決レポート及びパトロールビデオを公開しました。

4. 競馬への参加促進及び販売促進

(1) プロモーションの展開

競馬ファンを中心とした幅広い層をターゲットに、「HERO IS COMING.」をキャッチフレーズとした年間プロモーションを引き続き展開しました。

また、J R A の公式競馬エンターテインメントサイト「J R A FUN」において、様々なコンテンツを展開するとともに、「J R A 公式 Facebook」や「J R A 公式 Instagram」等の SNS を活用し、中央競馬の話題の拡散を行いました。

さらに、競馬そのものの魅力を訴求するブランドCM「あしたのために、競馬はある。」や競馬産業に携わる人等、人と馬との関わりを描いたアニメCM「今日、わたしの物語が走ります。」を放映しました。

(2) 広報活動の展開

祝日や平日の競馬開催日も含めてテレビ・ラジオによる競馬中継の放送枠を安定的に確保しました。また、J R A の認知度向上や競馬に関する話題作りを図るため、年間を通じてミニ番組の提供を行ったほか、春秋のG I シーズンの盛り上げを図るため、バラエティ番組・スポーツ番組及び情報番組におけるパブリシティやミニ番組の放送等を行いました。

さらに、J R A で勝馬投票券を発売する海外競馬について、出走馬データや遠征馬の近況等の情報をお客様へ迅速に提供するとともに、グリーンチャンネル（ノースク

ランブル放送) 及びラジオN I K K E Iにおいて、全ての発売対象レースを放送したほか、ドバイワールドカップと凱旋門賞については、地上波での中継も実施しました。また、お客様の注目度の高いドバイ諸競走、凱旋門賞、香港国際競走については、新聞及びWEBでのプロモーションを展開しました。

(3) 競馬場・ウインズ等の活性化

① お客様層に応じたアプローチ

競馬場において、延べ 11,993 人にビギナーズセミナーを、延べ 23,841 人にビギナーズカウンターをご利用いただきました。

また、102,015 人の女性のお客様にUMA J Oスポットをご利用いただきました。さらに、ウインズ後樂園において、有料席のネット予約販売を開始しました。

② 京都競馬場グランドオープン

4 月にグランドオープンを迎えた京都競馬場において、幅広い層のお客様に向けたイベントや装飾、各種プロモーションを実施しました。

③ 周年記念イベント等の実施

開設 90 周年を迎えた東京競馬場及び開設 70 周年を迎えた中京競馬場・ウインズ名古屋・ウインズ神戸において、記念イベント等を実施しました。

④ ウインズ・デーの実施

日頃からウインズ等をご利用いただいているお客様に感謝の意を表するため、8 月 19 日 (土)・20 日 (日) に「ウインズ・デー」を実施しました。

(4) 勝馬投票の利便性の向上

① UMACA 投票 (キャッシュレス投票) の利用促進

3 月にライトウインズりんくうタウンに、11 月にライトウインズ阿見にUMACA 投票を導入し、全ての事業所でUMACA 投票をご利用いただけるようになりました。

また、新たなサービスとして、4 月に「UMACA ポイント」を開始しました。さらに、新たな投票法として、11 月に「UMACA スマート」を導入しました。

なお、UMACA 投票会員に新たに 100,606 名のお客様にご登録いただき、令和 5 年末までに会員数は 305,969 名 (対前年比 96,806 名増) となりました。

② スマッピー投票の利用促進

全ての競馬場及びウインズにスマッピー専用フロアや専用窓口を設置するとともに、引き続き利用促進キャンペーンを実施するなど、更なる普及と利用拡大を図りました。

(5) 電話・インターネット投票会員の加入促進及び会員向けサービスの充実

① 電話・インターネット投票会員の加入促進

日本ダービー及び有馬記念において、「即PAT新規加入キャンペーン」を実施しました。なお、電話・インターネット投票会員に新たに767,273名のおお客様にご登録いただき、令和5年中央競馬終了時点で会員数は6,199,974名（対前年比229,381名増）となりました。

② サポート体制の充実

電話・インターネット投票に関する様々な問合せに的確にお答えする新たなコールセンターとして、4月に関西PATサービスセンターを開設しました。

③ 電話・インターネット投票会員向けサービスの充実

「Club JRA-Net」サイトの画面のリニューアルやコンテンツの充実を図るとともに、年間を通じて会員向けの各種キャンペーンを実施し、令和5年末までにClub JRA-Netの会員数は約251万人（前年比103.6%）となりました。

また、インターネット投票システムを活用した地方競馬の受託発売を延べ234日実施し、売得金は約1,582億円となりました。

④ 電話・インターネット投票の利便性の向上

加入者番号等の個人IDをJRAホームページ上で照会できる機能を新設するとともに、投票照会サービスの機能改善を行いました。

(6) 払戻金施策

① 払戻率の設定

7月1日（土）、8月27日（日）、9月18日（祝・月）及び12月28日（木）の全ての競走、全ての投票法を対象に、払戻率を80%に設定する「JRAスーパープレミアム」を実施しました。

② 払戻金の上乗せ

特定日の指定した競走・投票法において、通常の払戻金に売得金5%相当額を上乗せする「JRAプレミアム」について、ワイドを対象とした「金杯ワイド」、「3歳重賞+リステッドワイド」、「ダービーデーワイド」、「有馬記念デーワイド」、単勝を対象とした「夏の2歳単勝」、「秋の2歳単勝」、単勝及びワイドを対象とした「ホープフルデー単勝&ワイド」を実施し、計720競走において3,344,235,010円の上乗せを行いました。

また、すべての競走・投票法において、通常の払戻金が100円元返しとなる場合に、売得金の範囲内で払戻金に10円を上乗せする「JRAプラス10」について、計628件で4,235,966,570円の上乗せを行いました。

(7) 記念事業等の実施

10月29日(日)に、天皇皇后両陛下が東京競馬場へ行幸啓され、JRA競馬博物館で開催されていた競馬法100周年記念特別展「伝統の天皇賞 ～日本競馬のあゆみとともに～」及び第168回天皇賞(秋)(GI)競走をご覧になりました。

① 競馬法100周年

勝馬投票券の発売が実現し、今日の競馬の発展の礎となった競馬法が100周年を迎えたことから、記念競走の実施や「JRAスーパープレミアム」の実施、指定席・入場券ネット予約における割引など、年間を通じて各種記念事業を実施しました。

② JRAアニバーサリー

日頃から中央競馬をご愛顧いただいているお客様に感謝の意を表するとともに、JRAのこれまでの歴史を振り返る日として、9月18日(祝・月)を「JRAアニバーサリー」と題し、「競馬法100周年」と連携した各種イベント等を実施しました。

(8) 販売ネットワークの拡充

ウインズ浦和及びJ-PLACE船橋において発売日数を、ウインズ横手並びにJ-PLACE帯広、種市、盛岡、水沢及び三本木において発売レース数を拡大しました。

(9) お客様への情報提供の充実

① レース映像の充実

GI競走当日を中心に、引き続き車載カメラやヴァーチャルカメラ、スーパースローカメラ等の特殊カメラを増設し、レース映像を制作・放映しました。

また、4月にジョッキーカメラを導入し、その映像をYouTube「JRA公式チャンネル」で公開しました。

② 競走馬トラッキングシステムの導入

4月にレース中継映像に各馬の位置関係をグラフィック表示する競走馬トラッキングシステムを導入しました。

③ JRAホームページの充実

様々な特設サイトなどの新たなコンテンツを提供するとともに、海外馬券発売時には特設ページを開設し、出走馬やレース等に関する情報の提供を行いました。

また、3月にレース動画のライブ配信を開始しました。

さらに、9月にスマートフォン用公式アプリ「JRAアプリ」をリリースしました。

④ 映像提供施設「VIESTA（ヴィエスタ）」の運営

宮城県仙台市において、勝馬投票券の発売を伴わない映像提供施設「VIESTA（ヴィエスタ）」を運営し、114,386人のお客様にご来場いただきました。

(10) お客様関連施設の充実

① 京都競馬場整備工事

令和2年11月に着工した京都競馬場整備工事については、新スタンド（ゴールサイド）が令和5年2月に竣工し、4月にオープンしました。また、ステーションサイドのリニューアル工事（令和6年3月竣工予定）を引き続き行いました。

② 阪神競馬場スタンドリフレッシュ工事

令和2年12月に着工した阪神競馬場スタンドリフレッシュ工事を引き続き行いました。（令和7年5月竣工予定）

③ 宮崎育成牧場諸施設整備工事

令和4年2月に着工した宮崎育成牧場諸施設整備工事については、令和5年9月に竣工しました。

④ 中山競馬場馬場照明設備増設工事

令和4年6月に着工した中山競馬場馬場照明設備増設工事については、令和5年12月に竣工しました。

⑤ 競馬場の施設・設備の改善

札幌、函館、新潟、中山、中京及び小倉競馬場において、スマートシートの改修を行いました。

また、京都競馬場のターフビジョン並びに札幌及び京都競馬場のパドックに設置されている屋外表示装置の更新を行いました。

5. ホスピタリティの向上

(1) 接客対応の改善

スタッフの研修を実施するとともに、専門家による見取り調査等を行い、接客対応の改善を図りました。

(2) インフォメーション機能の充実等

函館競馬場において、統一的なサインシステムに基づくサイン（案内・誘導等）の改善を行いました。

また、競馬場において、デジタルサイネージを用いた「混雑状況可視化」に関する実証実験を行いました。

(3) 観戦環境等の向上

観戦マナー向上のためのターフビジョンやレーシングプログラム、ポスター等による啓発活動、場内装飾による環境美化等を実施しました。

6. 馬事の振興及び馬の福祉の充実

(1) 乗馬の普及

各事業所において、乗馬スポーツ少年団や学生を対象とする乗馬指導を実施しました。また、競馬開催時をはじめとして、体験乗馬や馬車試乗会等の馬事イベントを実施しました。

(2) 馬術の振興

各種馬術大会の開催を支援するとともに、馬術の振興に関連する諸団体が行う事業に対して助成等の協力を行いました。

また、馬や馬術競技の魅力を体感するアトラクションイベント「馬れる MUSEUM - TOGETHER ! 2023 - 」を馬事公苑や競馬場、外部施設など計7か所で実施しました。

さらに、馬事公苑については、令和4年2月に着工した整備工事が令和5年9月に竣工し、11月にオープンしました。なお、11月3日（祝・金）、4日（土）及び5日（日）に「JRA馬事公苑リニューアルオープン記念イベント」を開催し、約65,000人のお客様にご来苑いただきました。

(3) 馬事文化の発展への寄与

「馬の博物館」及び「競馬博物館」において、特別展やテーマ展等を実施しました。
また、馬事文化賞に、「エピタフ 幻の島、ユルリの光跡」（著者：岡田敦氏）を選出しました。

(4) 引退競走馬のセカンドキャリアの促進及びその養老等に関する取組みの推進

12月に馬事公苑において、引退競走馬と内国産乗用馬を対象とした「ジャパンプリーディングホースショー」を開催するとともに、JRA馬事公苑（宇都宮）等で引退競走馬をより円滑に乗用馬等へ転用するための調教（リトレーニング）技術の研究・検証に取り組みました。

また、競馬サークル関係者による「引退競走馬に関する検討委員会」を4回開催し、引退競走馬のセカンドキャリア促進を中心とした諸課題への検討を進めるとともに、障がい者乗馬やホースセラピー活動、大学・高校馬術部の支援等に取り組みました。

さらに、引退競走馬の養老等に取り組む団体等への支援を行うなど、馬の福祉の充実に努めました。

7. 持続的な発展に向けた取組み

(1) 社会貢献活動

① 地域社会との連携・協調

各事業所において、防災計画やマニュアルの整備を行うとともに、大規模災害の発生に備え、防災備蓄品の配備・管理を適切に行いました。

また、一部事業所において、地域のイベントへの馬の派遣や、地域住民を対象とした催し物を実施しました。

② 事業所周辺の整備に関する取組み

競馬開催日に、競馬場やウインズ周辺地域において、警備ポストを配置する等の交通対策を実施しました。また、競馬場・ウインズ等が所在する41の自治体に対して、総額53.8億円の環境整備事業費を交付し、事業所周辺の環境整備事業を実施しました。

③ 畜産振興への支援（畜産振興事業）

畜産分野に係る喫緊の対応が必要な事業や安全・安心な畜産物の供給に関わる事業、馬の防疫体制の整備等、畜産の振興に資するための事業に関し、特別振興資金

を活用して交付金を交付しました。(別表 10)

(2) 環境への取組み

① 資源循環型社会の構築への貢献

資源循環の基本原則である廃棄物の「3R (リデュース・リユース・リサイクル) +Renewable (リニューアブル)」に取り組んだ結果、競馬事業に伴い発生する排出物の総量は年間 36,785 t (速報値/対前年比 81.4%) となりました。

② 地球温暖化防止

LED照明器具等の省エネ機器の導入や、太陽光発電システム・バイオマス燃焼発電システムの運用により、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の抑制に努め、CO2総排出量は年間 87,954t-CO2/年 (対前年比 99.8%) となりました。

③ 地域社会との調和

競馬開催日に、競馬場やウインズ等において事業所周辺清掃や周辺道路の混雑緩和対策を実施しました。

④ 環境マネジメントの推進

「環境委員会」を中心に、環境への取組みを着実に推進する体制を構築し、環境関連法令の順守、廃棄物の適正処理等の環境コミュニケーションを適切に実施しました。また、全ての競馬場において、競馬開催日における電力を再生可能エネルギー由来の電力のみで賄う「クリーンエネルギー競馬」を実施しました。

(3) 組織の運営等に関する取組み

① 法令順守と透明性の確保

i) コンプライアンスに関すること

役職員に対する研修等を通じて「コンプライアンス行動指針」の周知徹底に努めるとともに、コンプライアンス監査等を実施し、コンプライアンス体制の確認・点検及びコンプライアンス意識の向上を図りました。また、コンプライアンス体制の維持・強化を図るため、「日本中央競馬会参加関連団体共通通報窓口」を開設しました。

ii) 個人情報、法人文書等の管理に関すること

「個人情報の保護に関する法律」「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」「公文書等の管理に関する法律」の規定に基づき、JRAの保有する個人情報、法人文書等を適切に管理しました。また、各種研修・

会議において啓発活動を実施するとともに、コンプライアンス監査等を通じ管理体制を強化しました。

iii) 情報公開に関すること

「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」等の規定に基づき、J R Aの保有する法人文書の開示請求 60 件について、適切かつ迅速に対応しました。また、J R Aホームページ等を活用し、J R Aの経営に関する情報等を公開しました。

iv) 契約・入札等に関すること

「入札監視委員会」を4回開催し、契約・入札の更なる適正化に向けた点検を行いました。また、入札公告等契約に関する情報をJ R Aホームページで公開しました。

② 勝馬投票に関わる違法行為等の防止

i) ノミ行為、違法インターネット賭事、悪質な競馬情報提供会社による被害等の防止

ノミ行為やインターネット賭事等の違法行為や、悪質な競馬情報提供会社について、J R Aホームページやレーシングプログラム等の各種媒体を通じてお客様への注意喚起を行いました。

ii) 20歳未満の者の勝馬投票券購入防止

20歳未満の者が勝馬投票券を購入することのないよう、レーシングプログラムやポスター等で周知を図るとともに、必要に応じてウインズへの入場時や、勝馬投票券購入時の年齢確認を実施する等の対策を講じました。

③ 社会貢献活動や環境への取組み等に関する発信

ブランドCM「あしたのために、競馬はある。～社会活動篇～」を引き続き放映したほか、J R Aホームページや各種メディアを通じてJ R Aの社会貢献活動や環境への取組みについて発信しました。

(4) 事業基盤の強化に関する取組み

① 人材の確保等に向けた取組み

i) 人材確保及び人材養成

騎手を志望する中学生を対象とした「J R Aジュニアユース」活動から4名の騎手課程合格者を輩出しました。

また、北海道大学・中央大学・法政大学・麻布大学において学生向けに競馬に関する講義を行ったほか、獣医学生を対象とする実習インターンシップや競走馬

の獣医師を目指す学生に対する奨学金事業を実施しました。

さらに、階層別研修やゲストスピーカーによる講演会等を通じてJRA職員等の養成に取り組みました。また、関連団体職員について、JRAについての知識と理解を深めるための研修を実施しました。

ii) 次世代育成

馬に関する講義や馬とのふれあいを行う出張授業を小学校14校において実施するとともに、キッザニア甲子園に引き続き「ホースパーク」パビリオンを出展しました。また、「ジョッキーベイビーズ」については、地区予選を全国7か所で実施し、勝ち抜いた8名の代表者による決勝大会を、10月8日(日)に東京競馬場において実施しました。

② 危機管理体制の強化

大規模自然災害等の不測の事態が発生しても事業が継続できるよう、事業継続計画の点検・確認を行いました。

③ 情報セキュリティの確保

「情報セキュリティ委員会」で定めた「対策推進計画」に基づき、情報セキュリティに関する教育、情報セキュリティに関する自己点検及びプログラム開発における品質向上に向けた取組みを行いました。また、外部機関による情報セキュリティ点検を行うとともに、役職員に対するeラーニング研修や標的型攻撃メール訓練等を実施しました。

④ コンピューターシステムの更新及び全体最適化

トータリゼータシステムをはじめとした各種システムについて、更新及び機能改善・強化を実施しました。また、一層のコンピューターシステムの全体最適化を推進するための基盤構築に着手しました。

⑤ 効率的・安定的な事業運営

労働生産性の維持・向上及びワークライフバランスの実現を目的として、「スライド勤務制度」及び「在宅勤務制度」の試行運用を行うとともに、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進に取り組みました。

⑥ ギャンブル等依存症対策

「ギャンブル等依存症対策委員会」で定めた「ギャンブル等依存症対策実施計画」に基づき、5月のギャンブル等依存症問題啓発週間におけるお客様への注意喚起や競馬場・ウインズ等への入場制限、電話・インターネット投票の利用停止や購入上限額の設定等の対策を引き続き実施しました。また、11月にUMACA投票の購入

上限額を設定できる仕組みを導入しました。

⑦ 国際協調及び国際協力の充実

国際競馬統括機関連盟（I F H A）の副会長国として、また、アジア競馬連盟（A R F）の副会長国として、種々の世界規模の課題について有効な方策の検討や各国・地域間の意見調整を行い、外国競馬統括機関との国際協調の維持及び日本競馬の国際的地位の向上に努めました。

また、アメリカ、カナダ、イギリス、アイルランド、ドイツ、アルゼンチン、ブラジル、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、香港及びサウジアラビアとの交換競走を実施しました。さらに、アジアウィーク（マレーシア、シンガポール、タイ、インド、フィリピン及びマカオとの交換競走）を7月に中京競馬場において実施しました。

<別表目次>

○ 別表 1	令和 5 事業年度の各種実績	p. 19
○ 別表 2	開催競馬場別開催実績・競走成績	p. 20
○ 別表 3	開催回数の推移	p. 21
○ 別表 4	開催日数及び競走回数の推移	p. 21
○ 別表 5	出走頭数の推移	p. 21
○ 別表 6	中央競馬のお客様総数及び開催競馬場入場人員の推移	p. 22
○ 別表 7	売得金の推移	p. 22
○ 別表 8	電話・インターネット投票会員数の推移	p. 23
○ 別表 9	馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移	p. 23
○ 別表 10	特別振興事業について	p. 24
○ 別表 11	競走馬総合研究所等における研究について	p. 34
○ 別表 12	J R A 賞 受賞馬及び受賞者	p. 37

【別表 1】

◎令和 5 事業年度の各種実績

①開催回数・開催日数	36 回・288 日
②競走回数	3,456 競走（前年実績 3,456 競走）
③出走延頭数	47,493 頭（前年実績 47,054 頭）
④勝馬投票券の売得金	3 兆 2,964 億 0,963 万 3,200 円（対前年比 100.7%）
⑤開催競馬場の入場人員	462 万 4,106 人（対前年比 165.7%）*
⑥お客様総数	1 億 9,988 万 6,474 人（対前年比 100.0%）

*うち女性入場人員は 94 万 8,555 人（対前年比 171.0%）。全体比 20.5%。

[売得金]

		対前年比	構成比(前年) ※
中央競馬売得金 (内訳)	3 兆 2,754 億 6,790 万 0,700 円	100.7%	-
開催競馬場	889 億 9,709 万 1,900 円	151.7%	2.7%(1.8%)
パークウインズ	619 億 6,713 万 4,800 円	119.0%	1.9%(1.6%)
ウインズ	3,390 億 2,756 万 7,700 円	111.0%	10.4%(9.4%)
J - P L A C E	696 億 9,495 万 9,000 円	115.3%	2.1%(1.9%)
UMACA スマート	94 億 3,098 万 6,000 円	-	0.3%(-)
電話・インターネット投票	2 兆 7,063 億 5,016 万 1,300 円	97.4%	82.6%(85.4%)
海外競馬売得金	209 億 4,173 万 2,500 円	105.9%	-
売得金(中央競馬+海外競馬)	3 兆 2,964 億 0,963 万 3,200 円	100.7%	-

*構成比については、端数処理をしているため、合計が 100% とならない場合があります。

[お客様総数]

		対前年比	構成比(前年) ※
中央競馬お客様総数 (内訳)	1 億 9,669 万 9,113 人	99.9%	-
開催競馬場	462 万 4,106 人	165.7%	2.4%(1.4%)
パークウインズ	313 万 4,300 人	124.1%	1.6%(1.3%)
ウインズ	2,067 万 9,087 人	104.0%	10.5%(10.1%)
J - P L A C E	536 万 6,800 人	107.6%	2.7%(2.5%)
UMACA スマート	25 万 2,934 人	-	0.1%(-)
電話・インターネット投票	1 億 6,264 万 1,886 人	97.6%	82.7%(84.7%)
海外競馬参加人員	318 万 7,361 人	101.3%	-
お客様総数(中央競馬+海外競馬)	1 億 9,988 万 6,474 人	100.0%	-

*構成比については、端数処理をしているため、合計が 100% とならない場合があります。

【別表 2】

1. 開催競馬場別開催実績

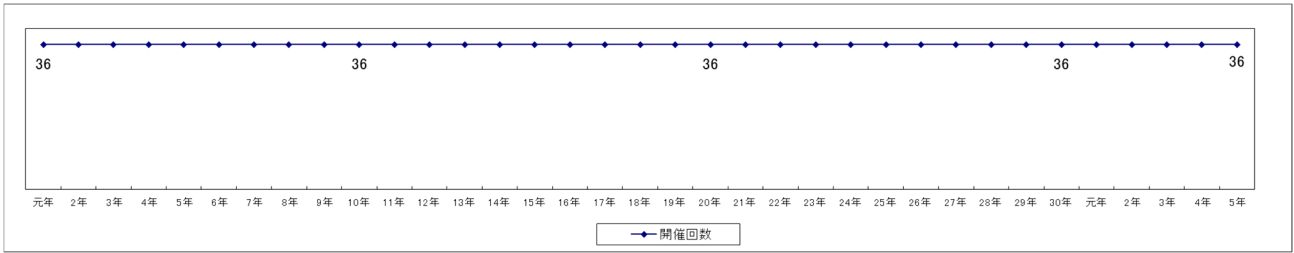
競馬場	開催回数	開催日数	競走数	出走延頭数	入場人員	売得金
札幌	2回	14日	168競走	2,163頭	183,322人	127,071,305,200円
函館	2	12	144	1,760	83,207	90,318,062,300
福島	3	20	240	3,389	194,806	147,175,587,200
新潟	4	26	312	4,433	260,414	212,774,257,800
中山	5	42	504	7,283	720,172	614,094,805,100
東京	5	45	540	7,623	1,390,921	689,069,692,900
中京	4	32	384	5,215	333,617	328,180,930,500
京都	3	29	348	4,612	659,834	368,555,953,600
阪神	5	46	552	7,229	600,370	548,453,022,300
小倉	3	22	264	3,786	197,443	149,774,283,800
計	36	288	3,456	47,493	4,624,106	3,275,467,900,700

2. 競走成績

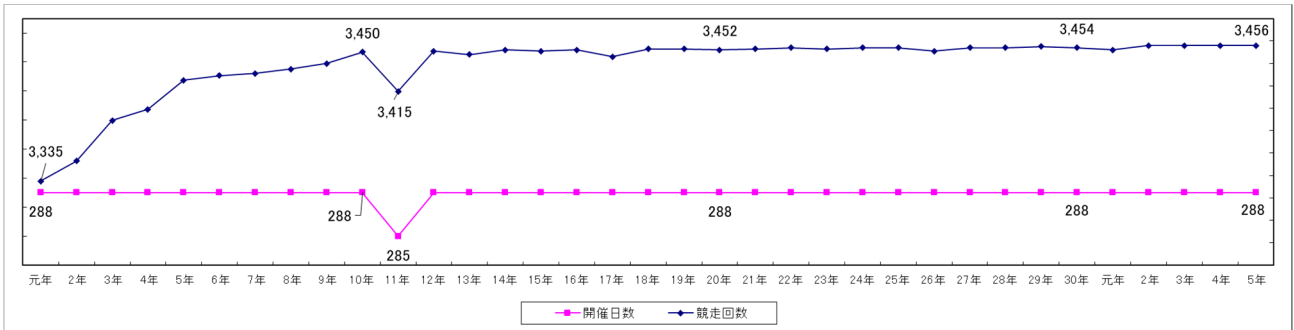
種別	競走回数				出走延頭数	出走実頭数	1競走平均 出走頭数
	一般競走	特別競走	重賞競走	合計			
2歳	591回	40回	14回	645回	8,043頭	3,262頭	12.5頭
3歳以上	1,823	746	115	2,684	37,996	8,214	14.2
障害	109	8	10	127	1,454	482	11.4
合計	2,523	794	139	3,456	47,493	11,703	13.7

※ 平地競走と障害競走の両方に出走した馬の数は、255頭

【別表3】開催回数の推移（平成元年以降）

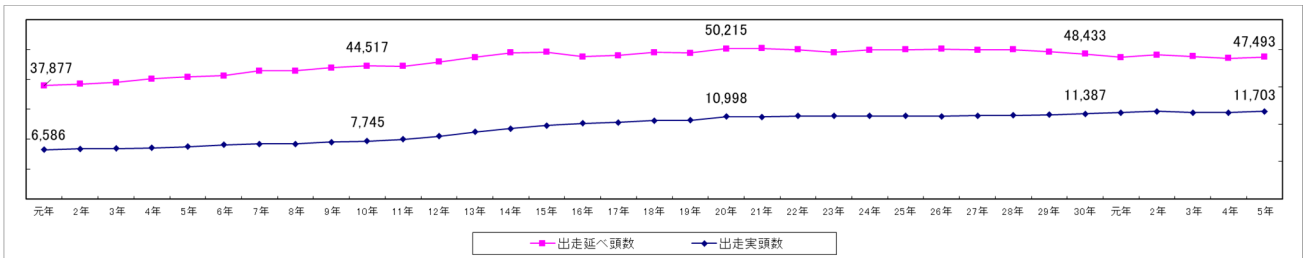


【別表4】開催日数及び競走回数の推移（平成元年以降）

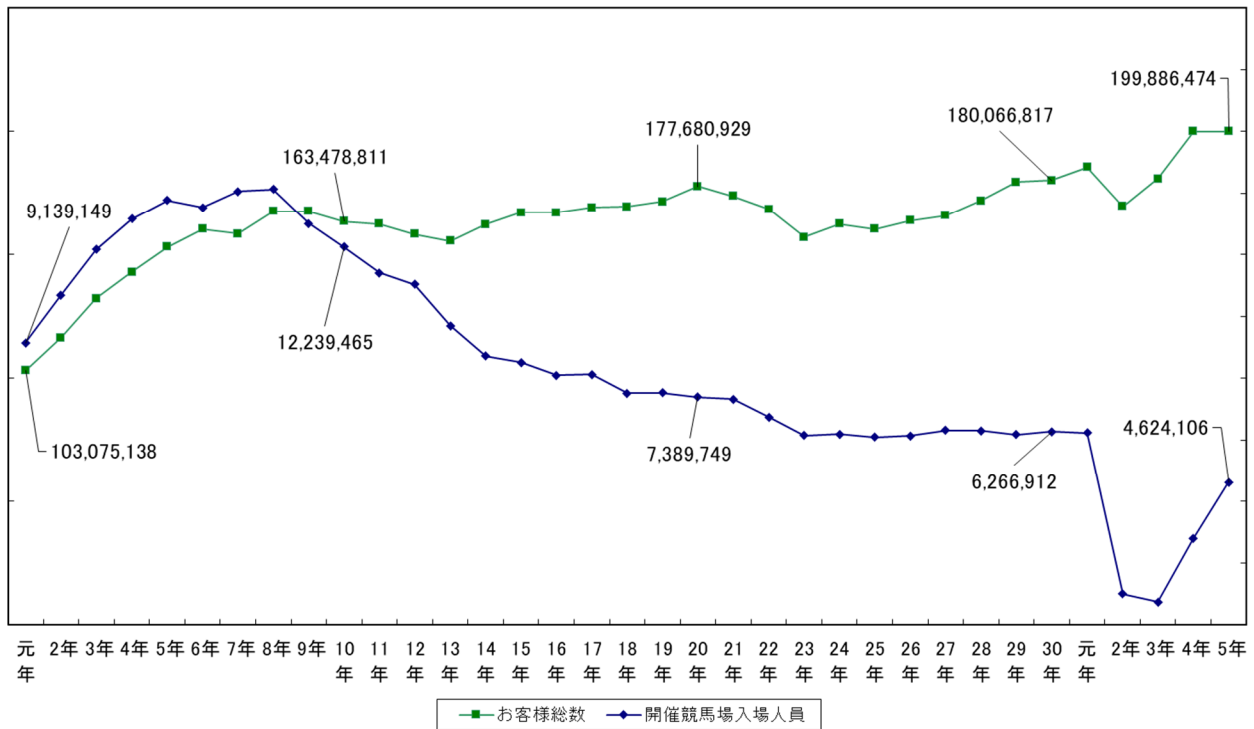


注) 平成11年：厩務員春闘の影響により3回中山第3日、2回阪神第3日、2回中京第3日を取止め

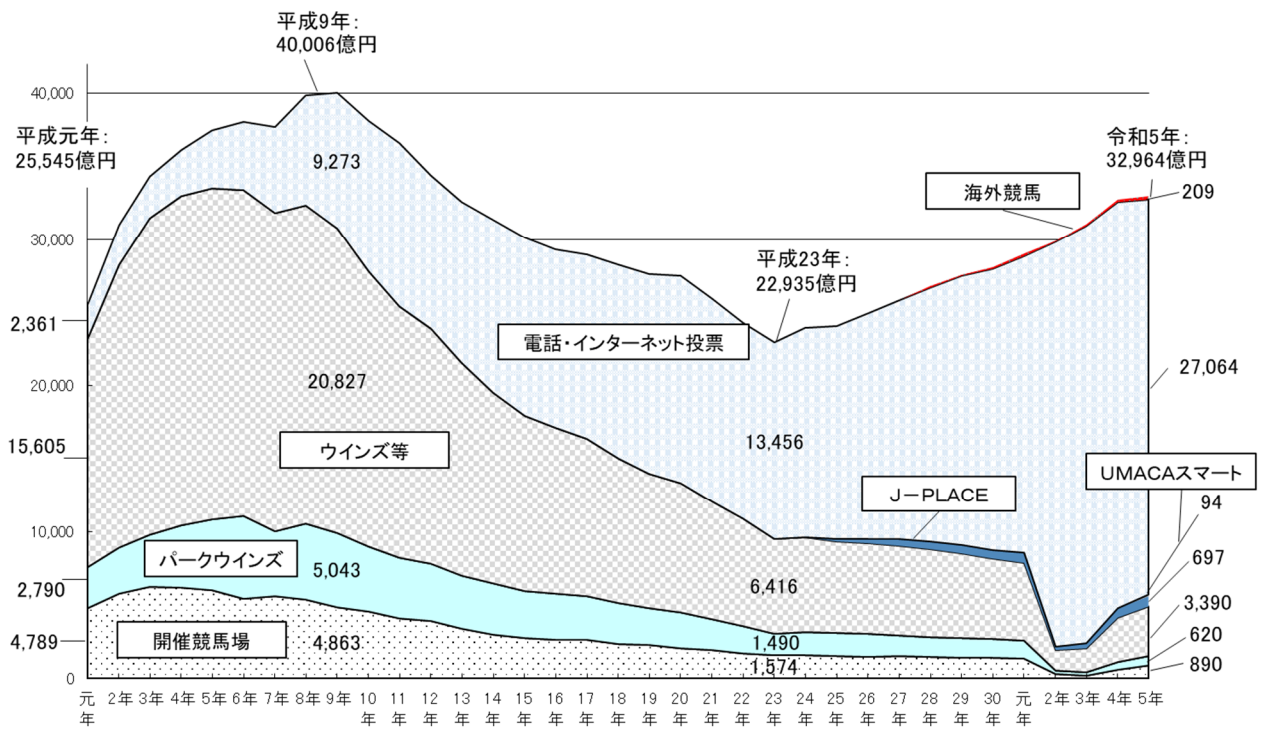
【別表5】出走頭数の推移（平成元年以降）



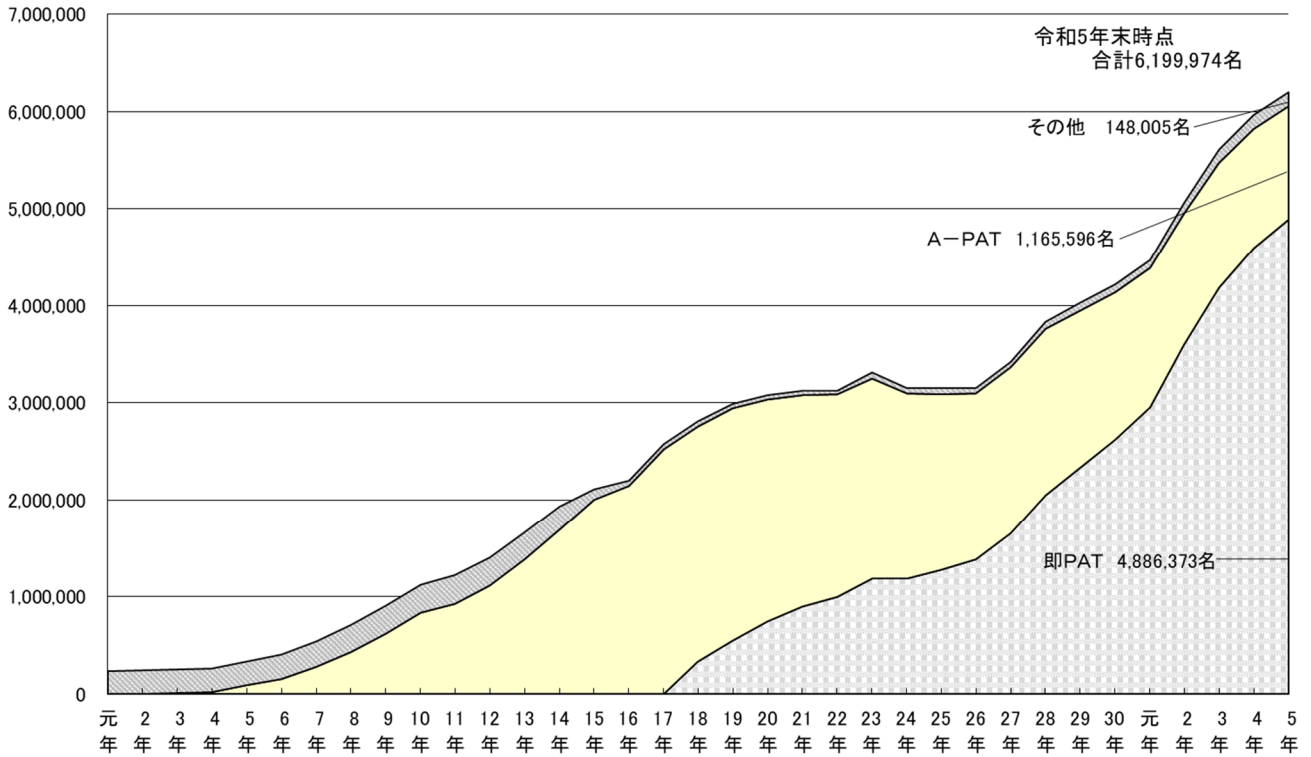
【別表 6】 中央競馬のお客様総数及び開催競馬場入場人員の推移



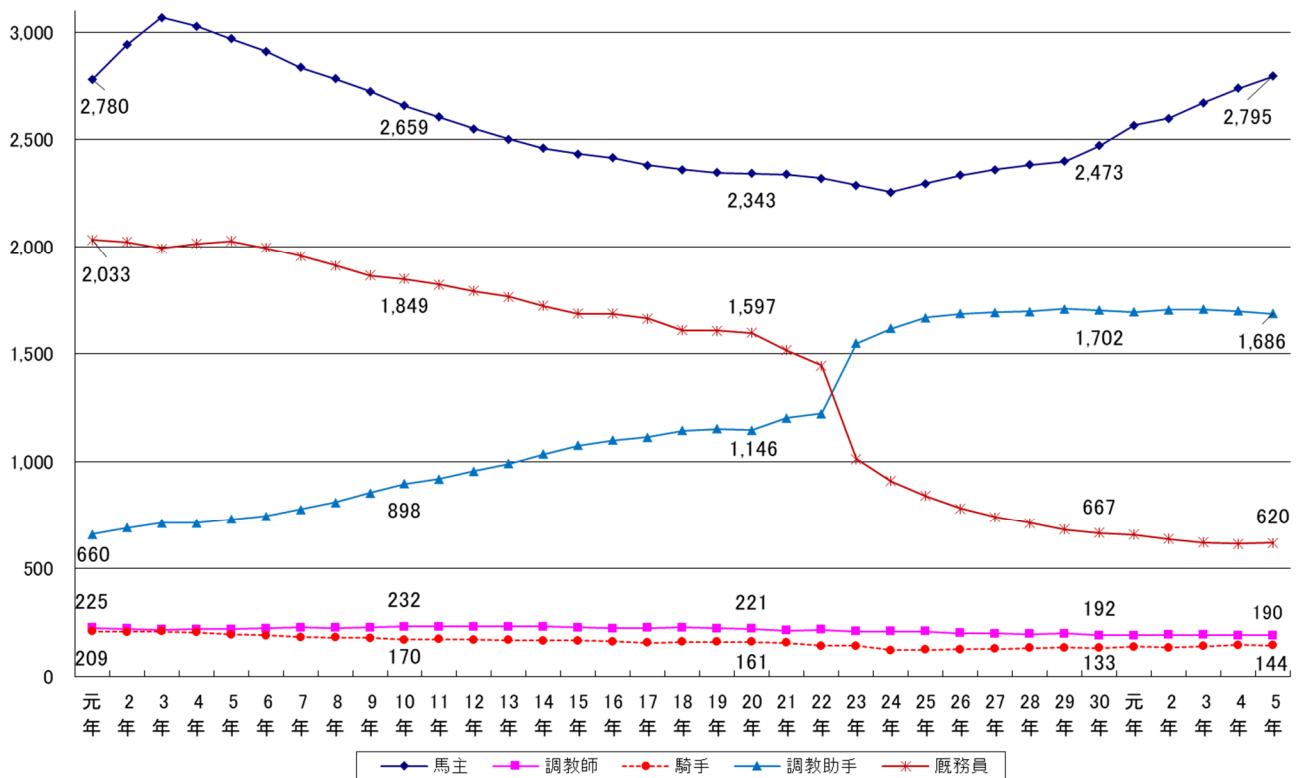
【別表 7】 売得金の推移



【別表8】 電話・インターネット投票会員数の推移（平成元年以降）



【別表9】 馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移（平成元年以降）



【別表10】

◎ 特別振興事業について

① 競馬振興事業（令和5事業年度）

【JRA直接実施事業】

事業名	事業内容	実施額（円）
1. 競馬理解増進総合事業 （競馬場誘引型） （催事型） （メディア活用型） （馬事紹介型）	<ul style="list-style-type: none"> 競馬場への来場を誘引するための催事の実施 競馬未経験層を主な対象としたキャンペーンや催事等の実施 メディア等を通じた競馬未経験層への理解増進 馬を活用した催事等の実施 	3,060,711,129
2. 厩舎関係者救護体制円滑化事業	医療機器整備を通じた、競馬場等の近隣医療機関との連携強化	73,119,005
3. 競走馬の獣医師を目指す学生のための学業奨励事業	競走馬の獣医師を目指す大学の獣医学生を対象とした奨学金制度	29,820,000
4. 国際競馬振興事業	国際競馬振興関連経費、諸外国における日本競馬プロモーション展開等	121,698,358
5. 第40回アジア競馬会議の開催（札幌大会）	第40回アジア競馬会議（2024年に札幌での開催を予定）開催に向けた諸準備	41,819,000
6. 地方・中央競馬相互発売システム更新事業	地方・中央競馬相互発売のための本会発売システム更新	15,220,000
7. ギャンブル等依存症対策事業	全国公営競技施行者連絡協議会が実施するギャンブル等依存症対策に取り組む民間団体への支援等	35,453,520
8. 軽種馬育成調教センター（BTC）調教施設整備事業	屋内1,000mトラック馬場の新設及び滞在厩舎・宿舎の増設	43,914,640
9. 乗馬普及体制持続化特別支援事業	乗馬普及、馬術振興の基盤となる大学馬術部の活動の維持・継続を目的とした支援	76,200,000
10. 馬事公苑整備工事に伴う「各種馬術競技会開催等支援事業」及び「三木ホースランドパークの馬事施設整備事業」【直接実施分】	馬事公苑整備工事に伴い影響を受ける各種馬術競技会が安定的に開催されるための支援及び三木ホースランドパークにおける大規模な馬術競技が安定的・継続的に開催されるための施設・設備等の改修・整備	3,575,730
11. 「馬術・乗馬の裾野拡充事業」「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援事業」及び「馬の多様な利活用促進等事業」【直接実施分】	馬を安全に取り扱える人材の養成、馬の多様な利活用の促進を図るための講習会等の実施、障害者乗馬・ホースセラピー活動等の促進、引退競走馬の乗用馬への転用促進等	488,656,776
12. 東京2020大会の馬術競技開催に伴うJRA馬事公苑整備事業	JRA馬事公苑諸施設の整備	4,939,407,028
13. 根岸競馬記念公苑整備事業	馬に関わる文化の普及と保存を担う中心的な役割を果たす根岸競馬記念公苑の整備工事設計等	190,113,000
14. 馬事文化紹介映像制作事業	全国各地に伝わる伝統馬事芸能・行事（祭り）等の馬事文化を紹介する映像の作成	22,000,000
合計		9,141,708,186

【助成事業】

事業名	事業実施主体	事業内容	交付額(円)
1. J R 武蔵野線船橋法典駅臨時口昇降設備改修事業	東日本旅客鉄道(株)	中山競馬場が直結している J R 船橋法典駅臨時改札口階段の改修(エスカレーター敷設) 工事	26,839,043
2. ウォーキングマシン導入支援事業	(一社) 日本調教師会	トレーニング・センターにおける調教補助設備(ウォーキングマシン) 導入に係る支援	38,610,757
3. 引退名馬繫養展示事業	(公財) ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	引退した競走馬(重賞勝馬)の飼養に対する補助及び情報発信に関する拡充	57,400,000
4. 競走馬マイクロチップ埋込推進事業	(公財) ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	マイクロチップ埋込に係る経費の一部補助	21,531,000
5. 日本競馬の情報・技術発信事業	(公財) ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	海外へのレース映像配信、ウェブサイト等を通じた海外への日本競馬情報発信及び人材交流等を通じた技術交流の促進	130,000,000
6. 競馬場周辺交通機関整備事業	京成バス(株) 福島交通(株)	お客様及び競馬場周辺住民の利便性の向上、環境改善等に資する、競馬場停留所路線を運行する民間のバス事業者による環境対策・安全性に配慮したバスの調達に対する助成	133,492,950
7. 地方競馬との共同広報事業	特別区競馬組合 兵庫県競馬組合	地方競馬主催者と共同で行う情報提供・広報宣伝	215,207,936
8. 軽種馬改良情報システム 整備事業	(公社) 日本軽種馬協会	オンラインビッド・セールシステムの改修・整備	127,000,000
9. 地方競馬振興促進事業	兵庫県競馬組合	地方競馬場、発売施設の整備等	42,872,500
10. J B B A 軽種馬生産・育成技術者養成推進事業の施設整備事業	(公社) 日本軽種馬協会	研修所乗馬厩舎の改築及び乗馬詰所(管理所)等の改修	165,000,000
11. 競走馬理化学研究所における国際リファレンスラボラトリー体制強化事業	(公財) 競走馬理化学研究所	海外検体検査体制の構築(検査用機器の購入等)及び国際業務を継続的に実施できる人材の確保・育成(国際業務担当者雇用経費、海外技術研修費用)	479,850,000
12. 新薬物検査体制の国際標準化における地方競馬検査経費に対する助成事業	地方競馬主催者 14 団体	地方競馬主催者 14 団体に対する検体検査料金の一部助成	289,738,800
13. 馬獣医療向上のための研修拠点整備事業	鹿児島県曾於市	獣医大学生を対象とした産業動物(牛・馬・鶏を対象) 獣医療の研修施設における馬に関わる施設の整備	200,000,000
14. 馬術競技の国際的競技力の基盤強化及び馬術振興・乗馬普及等に資する「馬術競技強化等推進支援事業」	(公社) 日本馬術連盟 (公社) 日本近代五種協会	2024 年のパリオリンピック・パラリンピック競技大会に向けての選手強化、優良競技馬の確保等	900,000,000 20,000,000
15. 馬事公苑整備工事に伴う「各種馬術競技会開催等支援事業」及び「三木ホースランドパークの馬事施設整備事業」【助成分】	(公社) 日本馬術連盟 (公財) 三木山人と馬とのふれあいの森協会	馬事公苑整備工事に伴い影響を受ける各種馬術競技会が安定的に開催されるための支援及び三木ホースランドパークにおける大規模な馬術競技が安定的・継続的に開催されるための施設・設備等の改修・整備	115,000,000 265,000,000
16. 「馬術・乗馬の裾野拡充事業」 「引退競走馬のセカンドキャリア	(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会	馬を安全に取り扱える人材の養成、馬の多様な利活用の促進を図るための講習	933,000,000

ア形成等に向けた取組み支援事業」及び「馬の多様な利活用促進等事業」【助成分】		会等の実施、障害者乗馬・ホースセラピー活動等の促進、引退競走馬の乗用馬への転用促進等	
17. 馬の博物館収蔵資料のデジタル保存事業	(公財)馬事文化財団	馬の博物館が収蔵している写真フィルム等のデジタル保存・管理	11,290,325
合 計			4,171,833,311

②畜産振興事業（令和5事業年度）

事業名	事業実施主体	事業内容	交付決定額 (千円)
1. 受胎率予測による乳牛繁殖管理技術開発事業	公立大学法人 大阪	牛群検定成績に基づく受胎率予測モデルを人工知能により構築し、その予測モデルを活用した繁殖管理技術の開発及び効果検証を実施する。	49,042
2. 心音クラウド解析による遠隔診断法開発事業	国立大学法人 東京大学	聴診クラウドモニタリングシステムを活用して農場で収集された子牛の心音データを聴診クラウドを介して解析し、異常の有無と診断結果を農家と獣医師に迅速にフィードバックし、心疾患の早期診断と予後判定を支援する遠隔診断法を構築する。	16,756
3. 植物抽出物による豚飼料用抗生物質代替事業	国立大学法人 東京大学	本研究は、植物抽出物タンニンの非特異的な抗菌・抗ウイルス作用に着目し、抗生物質や一部ワクチンなしで、ブタの病気を予防できる飼料添加剤と添加方法を探究する。	18,363
4. 自然免疫受容体を活用した高受胎性牛ET法事業	国立大学法人 北海道国立大学機構 帯広畜産大学	子宮と精子・受精卵の自然免疫受容体を活性化して受胎率を10%向上させるET法のサイエンスを構築し、大規模ET試験で安全性、安定性、経済効果を検証して技術体系化する。	113,750
5. 消化液の高付加価値化・利用最適化事業	国立大学法人 北海道国立大学機構 帯広畜産大学	昨今の世界的な資源制約も鑑み、新たな工学的要素技術を開発して消化液の高付加価値化を図り、利用最適化プロセスを設計・提案することで、地域内での物質循環に貢献し、地域社会の発展につなげる。	7,508
6. 優良形質をもつウシ受精卵の受胎率改善事業	国立大学法人 宇都宮大学	体外受精卵の胚移植での受胎率及び産子生産率を高めるため、遺伝子多型から繁殖性の高い組合せを構築し、また受精卵の細胞機能を賦活化させ胚の着床する能力を高めてから胚移植する方法を構築することで、安定増産のシステムを樹立する。	32,916
7. 豚呼吸器病検出AI耳標実用化研究事業	公立大学法人 広島市立大学	普及型耳標程度までの更なる小型化及び頑健化を図るとともに、畜産農家の方々がセンサや解析AIを全く意識せずに罹患判定の結果のみを速やかに入手できる安価なAI耳標システムを構築する。	83,302
8. 大腸菌群乳房内感染制御による	国立大学法人 広島大学	大腸菌群による乳房内感染を制御するために、牛舎環境における細菌の汚染濃度とそ	62,466

衛生向上事業		の動態を含めた疫学的知見、及び乳房への病原性、薬剤耐性などの知見の蓄積と、それに基づく牛舎衛生管理法を構築する。	
9. 牛削蹄支援システム研究開発事業	国立大学法人 岩手大学	不足している削蹄師の養成や未熟練削蹄師、獣医師の削蹄技術向上を目指して、AI（人工知能）とXR（クロスリアリティ）を用い、牛の削蹄支援、削蹄訓練及び削蹄評価に係るシステムを開発する。	82, 214
10. 移植胚評価による高能力牛生産技術開発事業	国立大学法人 岩手大学	牛体外受精胚の一部組織を用いて、遺伝子発現プロファイルとゲノム育種価を同時に評価する技術を開発し、高い受胎性と産子の正常性が保証され、かつ遺伝的能力の高い胚のみを移植前に選抜し移植することで高能力牛の効率的生産を実現する。	44, 570
11. 持続可能な乳牛管理システム開発事業	国立大学法人 岩手大学	無線式 pH センサによる前胃液性状情報収集技術と、本情報と自動搾乳機器で得られた乳量・乳成分に関する各情報とを連携・解析するシステムを開発すること等により、泌乳量・乳成分の低下予防、亜急性第一胃アシドーシスの軽減、メタンガスの産生抑制に及ぼす効果を評価する。	52, 626
12. 複合マーカーによる不受胎牛判別法開発事業	学校法人 東海大学	血中タンパク質やアミノ酸に、核酸、プロゲステロン又は細胞外小胞を用い、早期に未経産・経産牛の受胎・不受胎を判別できる複合マーカーを開発する。	51, 493
13. 高受胎性と牛体外受精卵選抜技術の開発事業	国立大学法人 東京大学	継続的に発育観察した和牛体外受精卵について、受胎性・耐凍性に関与する発育動態指標の特定及び受精卵移植後の受胎率・分娩状況の調査により、高受胎率が望める和牛凍結体外受精卵の選抜技術を確立する。	45, 279
14. 黒毛和種仔牛の生体情報の活用事業	国立大学法人 東北大学	仔牛の出生後、哺乳期、離乳期と育成期への移行期の高増体と健全性は、肥育成績と産肉性と深く関連していることから、黒毛和種の仔牛の増体能力に関連する生体情報を検証し、体型的・時系列に仔牛の能力を評価し、肥育成績と産肉能力を向上する技術を確立する。	44, 199
15. 牛乳房炎の先進的診断技術開発事業	学校法人 酪農学園	核磁気共鳴装置、質量分析計、次世代シーケンサー等の先端技術を用いた牛乳房炎診断と原因菌種特定技術を開発するとともに、乳汁由来抗体の検出による原因菌特定技術を開発し、それらの普及に努める。	84, 510
16. 高付加価値子畜の超高速増産事業	国立大学法人 東京農工大学	割球分離による一卵性多子生産技術、受精卵由来少数細胞によるゲノミック評価法並びに若齢牛由来卵子及び小型卵子からの効率的受精卵生産技術を開発・統合させることにより、任意の形質を有する高付加価値子畜を超高速に増産させる新技术を開発する。	99, 932

17. 高栄養牧草生産利用技術開発・実証事業	学校法人 酪農学園	北海道での牧草生産の主要草種であるチモシーは雑草が侵入しやすく栄養価の低下が問題となっている。競合力に優れるオーチャードグラス及び栄養価の高いアルファルファの新品種等の活用により、自給飼料の高栄養化と乳生産性の改善効果を明らかにし、現地実証を行う。	72,888
18. 乳用牛ゲノミック選抜の推進強化研究事業	一般社団法人 日本ホルスタイン登録協会	ゲノミック選抜の実用化を促進するため、ゲノミック育種価の信頼度向上対策を推進する。ゲノミックの特性を生かし総合的改良指標や各種遺伝情報を開発し、その普及に努める。	157,469
19. 規格外カンショの飼料品質確保推進事業	国立大学法人 宮崎大学	規格外カンショを飼料として有効利用するため、規格外品や副産物等に含まれる毒性物質を定量し、適正な飼料設計のため規格外カンショの化学成分と栄養価を求め、規格外カンショの飼料化のための工程管理マニュアルを作成する。	7,541
20. スマート技術を活用した子豚損耗低減化事業	国立大学法人 宮崎大学	映像又は音を用いたスマート技術により分娩予知・検知及び子豚損耗リスクを検知する仕組みを構築し、この検知法を用いた効率的かつ的確な分娩管理法を確立する。	68,999
21. 持続可能な地産地消型飼料開発事業	国立大学法人 九州大学	昆虫、及び未利用の有機廃棄物（竹、家畜糞等）を活用し、持続可能な地産地消型養鶏飼料の生産システムの開発を目指す。また、当該システムによって生産された飼料を用いて採卵鶏への飼養試験、及び生産物（卵）の機能性評価を実施する。	71,205
22. 微小生物を用いた環境負荷低減技術開発事業	国立大学法人 香川大学	高速増殖型珪藻や昆虫といった微小生物を活用することで畜産関連環境負荷物質を低減させる処理技術を開発し、得られる藻体や虫体、残渣の肥料的価値を評価する。	71,273
23. 妊孕性復元による牛繁殖性改善技術開発事業	国立大学法人 岡山大学	牛の分娩後の子宮内膜内に残存する老化細胞を早期に除去することにより子宮回復を促進し分娩間隔を短縮する技術を開発する。	59,726
24. 牛乳房炎発症予防法と抗病性育種の開発事業	国立大学法人 東北大学	プロバイオティクス飼料給与等の免疫能向上による乳牛の乳房炎に対する抗病性改善・乳生産性向上に関する検証を行い、抗生剤に依存しない飼養管理手法の改善による総合的な乳牛の乳房炎発症予防のための指針を確立する。	114,299
25. 和牛ゲノムデータ駆動型未診断疾患解明事業	国立大学法人 琉球大学	和牛の臨床現場で問題となる原因特定が困難な未診断疾患の解明のため、和牛ゲノムデータベースを用いて候補変異を検索後、疾患を予測し、和牛で臨床検証すること等により、未診断疾患の原因変異を特定する。	105,050

26. 体外受精等次世代型の日本在来馬生産法確立事業	国立大学法人 北海道国立大学機構 帯広畜産大学	非繁殖期に、生体内卵子吸引技術を用いて、小～中型卵胞から卵子を採取して顕微授精法及び培精法を検討し、体外受精技術を確立する。その体外受精卵を胚盤胞ステージまで培養し、凍結保存する技術を確立する。	98, 925
27. 尾部センサを活用した重種馬の分娩事故防止事業	国立大学法人 北海道国立大学機構 帯広畜産大学	馬の尻尾に多機能センサを装着して、得られたデータ（体表温度、活動量、尻尾の挙上行動、横臥行動）を機械学習により解析することで、分娩の予測モデルを作成する。	10, 790
28. 国産飼料データベース構築及び利用推進事業	国立大学法人 広島大学	自給粗飼料や自給濃厚飼料の成分データを収集し、データベースを構築する。このデータベースを情報端末等で利用できるようにシステム化し、飼料生産コントラクターやTMR センターなどの外部支援組織での飼料生産を支援する。	39, 378
29. 高タンパク稲DNAマーカー開発事業	一般社団法人 日本草地畜産種子協会	飼料用稲において高タンパク質含量に関与する遺伝子のDNAマーカーを開発し、海外の稲遺伝資源由来の高タンパク形質を国内育成飼料用稲専用品種へ導入することで、WCS専用飼料用稲の更なる品質の向上を図る。	108, 728
30. 地球温暖化対応ライグラス類開発事業	一般社団法人 日本草地畜産種子協会	地球規模の気候変動に対応して国産飼料作物の作付け拡大や栄養単収の向上による飼料増産を図るため、牧草の中でも特に高栄養なライグラス類について、高温環境下でも安定多収性を示す品種の育成・普及を促進することにより飼料自給率の向上に資する。	114, 035
31. 牛ガラス化胚の直接移植法の検証・改善事業	学校法人 北里研究所 北里大学	令和2～4年度の JRA 畜産振興事業により、本学が開発した牛ガラス化胚直接移植法の有効性を検証するとともに、酪農・畜産、暑熱・寒冷など様々な現場要因に対応可能とするための技術開発を行う。	64, 053
32. 黒毛和種牛肉の低需要部位の訴求技術開発事業	国立大学法人 神戸大学	黒毛和種牛肉は、ロース以外の低需要部位の販売が課題となっていることから、モモ肉の美味しさの客観的な数値化技術の開発を図ると共に、成果を国内外に情報発信することで、黒毛和種牛の部位間の独自価値の創出と訴求を目指す。	12, 778
33. 実践型霜降り豚肉作出技術の高度化・普及事業	学校法人 近畿大学	豚枝肉格付の変更に対応した新たなアミノ酸比率法を提案し、その汎用性の実証と普及活動を行うことで、国産豚肉の競争力アップを目指す。	36, 054
34. 動物用生物学的製剤基準英語版作成事業	公益社団法人 日本動物用医薬品協会	ワクチンの製造方法、検査法等を規定した法に基づく基準（「動物用生物学的製剤基準」）の英訳を関係者に配布し、輸出対象国でのマーケティングや販売許可のための政府機関の審査に活用することにより、国産	13, 698

		ワクチンの輸出促進を図る。	
35. 馬伝染性子宮炎自衛防疫普及啓発事業	公益社団法人 日本軽種馬協会	馬伝染性子宮炎(CEM)の再侵入・蔓延防止のため、国内初供用牝馬及び本病を疑う症状を呈した牝馬や乳母等の同居牝馬を対象にPCR検査を実施し、各軽種馬繋養地で実馬を使用した本病の講習会で衛生指導を通じて、軽種馬生産の安定的発展を図る。	41, 970
36. 豚肉の賞味期限延長・おいしさ向上評価推進事業	一般社団法人 食肉科学技術研究所	畜産物の輸出拡大、食品ロスの削減を図るため、豚肉について、包装方法の改善や微生物コントロール等が賞味期限の延長とおいしさの変化に及ぼす影響を科学的に分析・評価、見える化し、賞味期限の延長とおいしさの向上に貢献する。	39, 151
37. デジタル式鼻紋採取システム構築・検証事業	公益社団法人 全国和牛登録協会	個体と品種を証明する和牛の登記及び登録証明書では、終生不変でクローン間でも異なる特徴を有す鼻紋を個体識別として採用しており、本事業においてデジタル式鼻紋採取システムの実用化に向けた構築及び検証を行う。	16, 838
38. 輸出施設 AW 対応設備基準・マニュアル作成事業	公益財団法人 日本食肉生産技術開発センター	牛肉等の輸出認定施設の拡大を図るとともに、我が国においても益々アニマルウェルフェア(AW)の取組が求められていることから、食肉処理施設のAWに対応した設備の構造基準及び取扱マニュアルを作成し、牛肉等の輸出拡大に資する。	102, 511
39. 血斑低減頭部保定式スタンピング装置開発事業	食肉生産技術研究組合	血斑低減のためには牛頭部への正確なスタンピング(気絶処理)が不可欠である。スタンピングボックスで頭部を適切に保定するための保定装置を開発し、効果的かつ効率的なスタンピングを行うことにより、血斑低減を図り牛肉の輸出拡大に資する。	115, 276
40. 高濃度畜産臭気脱臭技術開発普及事業	一般財団法人 畜産環境整備機構	堆肥化促進技術の進歩によって高濃度の臭気が発生し悪臭苦情の原因となっていることから、脱臭に寄与する微生物が繁殖しやすい接触濾材及び浄化処理施設を活用した高濃度の悪臭を脱臭する技術を開発し普及する。	91, 212
41. 指定混合肥料による地力増強技術普及事業	一般財団法人 畜産環境整備機構	肥料法改正で新たに製造可能となった家畜ふん堆肥を活用した指定混合肥料について、窒素肥効などの特性値を明らかにし、指定混合肥料の適正利用と家畜ふん堆肥の利用促進を図る。	89, 804
42. 農福連携養蜂での指導者育成調査事業	一般社団法人 トウヨウミツバチ協会	全国の障害者施設で指導研究飼育を通して、障害の種類や程度に応じた指導について福祉・医療の専門家と検証し、検証結果を基に農福連携養蜂指導書を作成し全国規模で指導者の育成を図る。	38, 425

43. 蜂蜜中残留農薬関連情報収集・活用促進事業	一般社団法人 日本養蜂協会	国産蜂蜜の残留農薬の検出事例等がある20成分の情報収集、現行の一律基準値見直しを進め、蜂蜜及び果樹・農作物の安定生産、国民への蜂蜜・食料の安定供給等に資する。	17,489
44. 肉用牛環境対応生産拡大基盤技術普及事業	一般社団法人 全国肉用牛振興基金協会	様々な指導が行われている肉用牛の飼養管理について、基本的な管理技術に関する知見を整理検証し、普及させることで、資材価格高騰下、輸出拡大にも対応した生産基盤の強化、環境負荷軽減や飼養管理の効率化のための基盤とする。	18,555
45. 乗用馬防疫推進事業	公益社団法人 全国乗馬倶楽部振興協会	本協会の登録乗馬クラブ・乗馬施設の登録乗用馬に対し、軽種馬防疫協議会の予防接種要領に基づき、馬伝染性疾病である馬インフルエンザ、日本脳炎及び破傷風の予防措置としてのワクチン接種を的確に実施することで、防疫体制の推進を図る。	37,872
46. 豚の飼料利用性育種推進事業	一般社団法人 日本養豚協会	飼料利用性育種の推進を実現するため、国産種豚の飼料利用性に関するデータを収集し、その遺伝的特性を調査する。また飼料利用性育種を効率化するため、最新の知見を取り入れた育種手法の国産種豚造成への適用可能性について調査する。	113,644
47. 畜産ティーン育成プロジェクト事業	公益社団法人 国際農業者交流協会	畜産の新しい発見や魅力を再認識させ、将来畜産業に就業する動機付けを与えるため、高等学校生徒を対象に畜産業が盛んな外国において海外研修を実施する。また研修成果を広く社会に発信し、次世代の畜産業従事者増加に資する啓発活動を行う。	26,078
48. G 評価活用による和牛産地活性化モデル事業	一般社団法人 家畜改良事業団	新たに市場出荷牛についてゲノミック評価を行い、評価情報を子牛市場に提供することで子牛や牛肉の価値向上を通じた市場・地域の活性化や、脂肪酸組成を柱にしたブランド化の取組の支援により、肉用牛生産の競争力強化に資する。	114,714
49. 畜産用動物薬等の安定供給対策・研修強化事業	一般社団法人 全国動物薬品器材協会	動物用医薬品の国内外での供給逼迫の状況・要因等を調査するとともに、情報提供システム・体制を構築し共有する。また、動物用医薬品販売業者の資質向上のため、最新の関連法規、動物薬の市場動向等の知見に関するテキスト教材の作成し研修会等を開催する。	21,034
50. 農場での動物用医薬品使用情報収集還元事業	国立大学法人 東京大学	動物用医薬品の電子指示書システムに、獣医師のカルテ情報の収集機能を追加することで養豚農場における動物薬使用の全体像を把握できるシステムを開発する。また、他畜種についても、指示書及びカルテ情報を収集する簡略的な手法を検討・開発し、試験的に運用する。	60,695

51. 和牛ゲノム選抜手法研修・成果活用推進事業	公益社団法人 畜産技術協会	和牛の SNP 解析研修による各地域の研究員の技術水準の維持向上や SNP データ蓄積によるゲノム育種価予測式の精度向上を図るとともに、脂肪酸組成など新たな評価項目等を検討することで、全国及び地域的な和牛育種改良の高度化・加速化に資する。	137,418
52. AWに配慮したブロイラー飼養管理普及事業	公益社団法人 畜産技術協会	AWに配慮したブロイラーの飼養管理に関する情報を収集し、AWの考え方や対応事例等の情報を提供することで、飼養者及び関係者等へのAWの普及・推進を図る。	12,149
53. 供給リスク増大下の食肉事情等理解醸成事業	公益財団法人 日本食肉消費総合センター	最近の食肉供給事情や食肉の適切な価格形成に対する一般消費者の理解を醸成することにより、将来にわたって食肉の安定供給を図る。	38,320
54. 畜産経営の危機克服・持続のための実態緊急調査事業	一般社団法人 全日本畜産経営者協会	飼料等の生産資材の価格暴騰及び入手困難といった畜産経営における危機により受けた影響及び対応状況、政府施策の畜産経営者への貢献度等を調査して、「危機対応事例集」等を作成・配布することで畜産経営の継続に資する。	17,779
55. 和牛4品種ゲノムデータベース構築事業	公益社団法人 畜産技術協会	前事業で開発した黒毛和種のゲノムデータベースに新たに和牛3品種を加えた高精度ゲノムデータベースを構築し、各品種の特徴をゲノムレベルで把握するための情報基盤を構築する。	106,325
56. 食肉流通HACCPステップアップ事業	全国食肉事業協同組合連合会	食肉流通HACCPのステップアップを通じて衛生管理を向上させるため、手引書等の必要な見直し、フォローアップを行うとともに、現場段階での指導・支援の強化、HACCPスマート化に向けたデジタルツールの実証・開発を推進する。	158,285
57. 乳・乳製品の官能評価体制強化支援事業	公益財団法人 日本乳業技術協会	乳・乳製品の官能評価は、酪農家の乳牛の健康管理手段としても、重要性が増していることから、酪農家も対象に、より幅広く、参加しやすく、レベルアップした研修、能力認定等を実施し、ミルクサプライチェーン全体の官能評価体制の強化を支援する。	70,847
58. 人材確保・育成に係る人事評価制度調査事業	公益社団法人 日本農業法人協会	畜産経営の慢性的な労働力不足の課題解決に向けて、当協会の畜産会員に対する人事評価制度に係る実態調査やモデル経営体への現地ヒアリング等により、畜種ごとの人事評価シート及び活用マニュアルを作成・普及し、人材確保・育成に貢献する。	11,542
59. 映像を活用した畜産情報推進事業	公益社団法人 中央畜産会	優れた畜産物生産・経営技術や先進的な畜産物輸出促進活動等の映像情報を収集し、わかりやすく質の高い映像情報として、インターネット及びBSグリーンチャンネル放送等を活用して発信することで、持続的な畜産経営の育成及び消費者の畜産への理	144,756

		解嚢成を図る。	
60. 臨床獣医師防疫体制強化事業	公益社団法人 中央畜産会	感染症の診断、防疫、飼養衛生管理の指導等に携わる産業動物臨床獣医師に対し海外悪性伝染病等の診断技術研修等を実施し、防疫体制強化に資する。	121,491
61. 地域養豚生産衛生向上対策支援事業	公益社団法人 中央畜産会	養豚生産主要地域の自衛防疫組織を中心に、飼養衛生管理基準に基づき農場での導入から出荷までの工程で、これらの疾病の発生・まん延を低減、防止するための自主的な衛生対策を実施して効率的な生産を推進する。	132,867
62. 馬伝染性疾病防疫推進対策事業	公益社団法人 中央畜産会	馬事産業に大きな影響を及ぼす馬インフルエンザ、馬鼻肺炎、日本脳炎、破傷風、馬ゲタウイルス感染症等疾病に対する高い免疫の確保、維持及び構築を図るため、生産者等と一体となってワクチン予防接種等を推進し馬事振興に資する。	269,110
63. 馬飼養衛生管理特別対策事業	公益社団法人 中央畜産会	地域における獣医師の衛生管理技術や、診断・病性鑑定技術の維持・向上を図り、競走馬以外の馬の飼養衛生管理を充実させ、地域の総合的な馬自衛防疫体制の確立を図り、安定的な馬事振興に資する。	49,043
64. 野生獣衛生対策促進事業	家畜衛生対策推進協議会	野生獣に係る衛生問題として、公衆衛生面ではジビエ利用増加に伴うE型肝炎等の人獣共通感染症が憂慮され、畜産ではCSF等の家畜伝染病の伝播拡散が問題となっていることから、野生獣の衛生実態調査を推進し、情報発信並びに衛生対策の普及啓発を図る。	148,637
65. 農場管理認定・専門獣医師等認定・活動支援事業	公益社団法人 日本獣医師会	畜産農場への感染症の侵入防止をはじめ、生産性の向上、AMR対策等、畜産経営全般を指導する農場管理獣医師の活動が期待されていることから、農場管理獣医師等の養成研修体制の整備による専門獣医師制度を確立し、わが国畜産の発展に資する。	61,792
66. 遠隔獣医療技術向上・普及体制構築支援事業	公益社団法人 日本獣医師会	デジタル画像情報を若手獣医師の教育体制の強化や獣医療のほか畜産経営全般に活用することにより、遠隔獣医療技術の向上及び全国的な情報共有・交換体制を構築し、偏在化する畜産農家への迅速かつ効率的な診断・治療体制を確保する。	114,090
		小 計	4,655,534

(注) 上記の各事業は、(公財)全国競馬・畜産振興会を通じて実施するものである。

事業名	事業実施主体	事業内容	実績額 (千円)
畜産振興事業附帯事業	本会	学識経験者からなる審査委員会を設置し、新規事業を選定するとともに、特定法人において助成金交付業務を行う。また、学識経験者からなる評価委員会を設置し、事業評価を行う。	107,674
小計			107,674
総計			4,763,208

【別表 11】

◎ 競走馬総合研究所等における研究について

No.	研究種類 研究分野	研究課題	事業所	担当 研究室	協力機関等
1	一般 スポーツ科学	異なる走路上での筋活動に関する研究	競走馬総合研究所	運動科学	
2	一般 スポーツ科学	暑熱順化プロトコルの違いによる運動パフォーマンスへの影響	競走馬総合研究所	運動科学	
3	一般 スポーツ障害	競走馬の各種疾病に対する臨床技術の向上に資するための基礎研究	競走馬総合研究所	臨床医学 運動科学	微生物研究室 栗東トレーニング・センター 美浦トレーニング・センター 日高育成牧場 宮崎育成牧場
4	一般 スポーツ障害	ウマ間葉系幹細胞を用いた凝集体作製法の改良および治療効果に関する検討	競走馬総合研究所	臨床医学	
5	一般 スポーツ障害	ブドウ球菌感染症に対するセファロチンに代わる抗菌薬および治療法の検討	競走馬総合研究所	臨床医学	
6	一般 伝染病対応	フローサイトメトリー技術を用いた馬ピロプラズマ病診断法の実用化の検討	競走馬総合研究所	微生物	
7	一般 伝染病対応	整腸剤および糞便移植が抗菌薬投与後における腸内細菌叢の復元力に与える影響	競走馬総合研究所	微生物	

8	一般 伝染病対応	馬感染症の疫学監視および臨床微生物学的研究	競走馬総合研究所	微生物 分子生物	
9	一般 伝染病対応	馬感染症の多病原体同時検出法の確立に関する研究	競走馬総合研究所	分子生物	
10	一般 伝染病対応	人工合成ウイルスの馬インフルエンザワクチンへの応用	競走馬総合研究所	分子生物	
11	一般 生産育成	競走馬の生産育成に関わる諸課題の解決ならびに各種疾病における診断・治療および予防法に関する研究	日高育成牧場	生産育成	日高家畜保健衛生所 北海道農業共済組合 みなみ統括センター 日高支所 日高軽種馬農業協同組合 栗東トレーニング・センター 美浦トレーニング・センター
12	一般 生産育成	妊娠後期のサラブレッド繁殖馬への給与飼料内容および運動負荷がインスリン感受性および糖代謝に及ぼす影響	日高育成牧場	生産育成	
13	一般 生産育成	競走期および繁殖におけるプロゲステロン類製剤の臨床応用	日高育成牧場	生産育成	
14	委託 スポーツ科学	ウマ-騎乗者複合体の水平方向モデル確立に向けた研究	競走馬総合研究所	運動科学	慶應義塾大学 政策・メディア研究科
15	委託 スポーツ科学	暑熱順化がサラブレッドの骨格筋に与える影響	競走馬総合研究所	運動科学	神奈川大学 人間科学部 人間科学科
16	委託 スポーツ障害	ウマ人工多能性幹細胞 (iPS 細胞) から間葉系幹細胞および腱細胞への分化誘導	競走馬総合研究所	臨床医学	東京農工大学 農学部 附属硬蛋白質利用研究施設
17	委託 スポーツ障害	バイオ 3D プリンタ技術を用いたウマ軟骨組織の再建技術の開発	競走馬総合研究所	臨床医学	佐賀大学 医学部 附属再生医学研究センター
18	委託 伝染病対応	馬由来 <i>Lawsonia intracellularis</i> の分離および培養法の確立	競走馬総合研究所	微生物	山口大学 共同獣医学部 獣医公衆衛生学分野

19	委託 伝染病対応	Poly-N-acetyl glucosamine (PNAG) ワクチン抗原の合成および抗PNAG抗体検出系の確立	競走馬総合研究所	微生物	福島大学 農学群 食農学類 食品化学コース
20	委託 伝染病対応	馬の消化管寄生虫症の診断法開発のための基礎的検討(馬の寄生虫のゲノム情報の整備)	競走馬総合研究所	微生物	北海道大学大学院 獣医学研究 院 寄生虫学教室
21	委託 伝染病対応	次世代シーケンシング技術を用いた馬ウイルス感染症の遺伝子検査法の確立	競走馬総合研究所	分子生物	東京農工大学 農学部 附属 感染症未来疫学研究センター
22	委託 生産育成	ウマの周産期における血中代謝物動態の解析	日高育成牧場	生産育成	東京農工大学大学院 農学研 究院 獣医生理学研究室
23	委託 生産育成	放牧地におけるイネ科およびマメ科牧草の草生割合が採食割合ならびに発育に及ぼす影響	日高育成牧場	生産育成	北海道大学大学院 農学研 究院 基盤研究部門 畜産科学 分野 畜牧体系学研究室

【別表 12】

JRA賞 受賞馬及び受賞者

1. 競走馬部門

	受賞馬	(馬主)	(調教師)
年度代表馬	イクイノックス	(有)シルクレーシング	木村 哲也 (美浦)
最優秀2歳牡馬	ジャンタルマンタル	(有)社台レースホース	高野 友和 (栗東)
最優秀2歳牝馬	アスコリピチューノ	(有)サンデーレーシング	黒岩 陽一 (美浦)
最優秀3歳牡馬	タスティエーラ	(有)キャロットファーム	堀 宣行 (美浦)
最優秀3歳牝馬	リバティアイランド	(有)サンデーレーシング	中内田充正 (栗東)
最優秀4歳以上牡馬	イクイノックス	(有)シルクレーシング	木村 哲也 (美浦)
最優秀4歳以上牝馬	ソングライン	(有)サンデーレーシング	林 徹 (美浦)
最優秀スプリンター	ママコチャ	金子真人ホールディングス(株)	池江 泰寿 (栗東)
最優秀マイラー	ソングライン	(有)サンデーレーシング	林 徹 (美浦)
最優秀ダートホース	レモンポップ	ゴドルフィン	田中 博康 (美浦)
最優秀障害馬	マイネルグロン	(株)サラブレッドクラブ・ラフィアン	青木 孝文 (美浦)
特別賞	ウシュバテソーロ	了徳寺健二ホールディングス(株)	高木 登 (美浦)

2. 調教師・騎手部門

①調教師部門

最多勝利調教師	杉山 晴紀 (栗東)
最高勝率調教師	木村 哲也 (美浦)
最多賞金獲得調教師	矢作 芳人 (栗東)
優秀技術調教師	木村 哲也 (美浦)

②騎手部門

JRA最多勝利騎手	C. ルメール (栗東)
JRA最高勝率騎手	川田 将雅 (栗東)
JRA最多賞金獲得騎手	C. ルメール (栗東)
MV J	松山 弘平 (栗東)
最優秀障害騎手	石神 深一 (美浦)
最多勝利新人騎手	田口 貫太 (栗東)

3. JRA賞馬事文化賞・功労賞

JRA賞馬事文化賞受賞者	岡田 敦氏 (エピタフ 幻の島、ユルリの光跡)
--------------	-------------------------